

仮面ライダーアルファ ス(完結)

コーヒー豆の妖精あーにゃん

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

ある日、1人の少年　神龍竜生が3人の少女と出会った。

ラブライブの大会のない世界で起こる危機

そして、彼は叫び戦う

竜生「GO!アルファス！」

※これはGoogle+というSNSであげていたものなので

世界観によっては、キャラクター等を知っています

目次

第1章 ダークアルファス編

第1話	再会	1
第2話	変身	6
第3話	メダルとヴァンパイアと魂	13
第4話	超越する力	18
第5話	正義	24
第6話	ライダー対ライダー	30
第7話	新しい力	37
第8話	光と闇のドラゴンその1	43

第9話 友

第10話	東の間の休息	54
第11話	光と闇のドラゴンその2	60
第12話	ドラゴンモード	66
第13話	私の未来	72
第14話	絆	78
第1章最終話	叶え	84
第2章 怪異・キラ編		
第16話	羽川翼	90
第17話	伝説の吸血鬼	96
第18話	重さ	101
第19話	怪異とキラ	107

	第20話	アルファス暗殺計画		着編	
	112			第28話	S A O
		第21話 神龍覚醒		第29話	黒と白の騎士
		第2章最終話	決着ダークアル	第30話	ジオウキラー
		ファス		第4章最終話	力
		122		最終章 不滅の戦士編	
	第3章	ライダーキラー出現編		第32話	子から親へ
	第23話	受け継がれる絆	128	第33話	終焉の始まり
	第24話	オーバーライド	133	第34話	アルファス対ダークサタ
	第25話	暴走と黒龍騎士	139		
	第26話	戦士の信念	144	ン	
	第27話	アルファスキラー		第35話 (最終回)	不滅の戦士
	150			198	
第4章		S A O・ライダーキラー決		特別編	平穏
					203

第1章 ダークアルファス編

第1話 再会

……………助けて……………誰か……………

……………お願い……………死にたくない……………

……………竜生君……………大好きだったよ……………

竜生「うう、またあの夢か、同じ夢ばかり」

俺は、いつも「助けて、誰か」と始まる少女の声によって

最後は爆発のシーンによって起こされる。

竜生「はあ、買い出しにも行かないとな。」

俺は、起きてからスーパーへ出かける途中

通行人「君！危ない！」

竜生「えっ、」

俺は、謎の光に包まれた。

〔光の中〕

竜生「ここは、」

???「見つけたぞ。竜生、」

竜生「おまえは？」

アルファス「仮面ライダーアルファス。」

竜生「アルファス……！アルファス！」

アルファス「思い出したようだな。キラーが現れた。行くぞ！」

竜生「ああ！」

竜生「来い！マシンアルファ！」

俺が叫ぶと1台のバイクが到着した。

それに乗る、キラーが現れた場所に向かった。

〔音ノ木坂学院〕

竜生「ここか、」

「きゃー！」

中から悲鳴が聞こえた。

アルファス「あそこだ！」

竜生「おう！」

中庭にキラールがいた。

竜生「待ちやがれキラール！」

ソードキラール「来たか、アルファス。この子達がどうなってもいいのかわ？」

穂乃果「助けて、」

海未「」

ことり「」

竜生「もちろんだ、ソードキラール絶対に許さん。」

ソードキラール「お前に何が出来る」

竜生「こうするんだよ。GO！アルファス！」

俺は、アルファスへと変身した。

ソードキラール「貴様は！」

アルファス「仮面ライダーアルファス見参」

ソードキラール「アルファス殺されたと思っていたが、はあ！」

アルファス「その程度か、ドラゴンセイバー！」

ソードキラール「はあ！」

アルファス「とう！流星ドラゴニックインパルス！」

ソードキラー「そんな馬鹿なあ！」

俺は、ソードキラーを倒した。

童生「ふう、」

アルファス「童生、よくやった。」

童生「ああ、」

穂乃果「もしかして」

海未「穂乃果？」

ことり「穂乃果ちゃん？」

穂乃果「童生君だよ。」

海未「ですが、童生とは何年も会ってないのですよ。」

ことり「うん、それに覚えてるかも分からないよ？」

穂乃果「それでも、」

俺は、バイクに乗り帰ろうとしていた時

穂乃果「やっぱり童生君だ。」

童生「?…!穂乃果、」

海未「童生、」

ことり「童生君、」

竜生「海未、ことり、」

俺は、3人の幼なじみと再会した。

この戦いはまだ始まったばかりに過ぎない。

第2話 変身

竜生「久しぶりだな。」

穂乃果「うん、」

竜生「ちよつと、ここの理事長と話があるから、じゃあ、俺は、音ノ木坂学院に入っっていった。」

海未「竜生、昔と変わりましたね。」

ことり「そうだね。昔は、笑顔で活動的だったのに、」

穂乃果「何かあったのかな、」

海未「分かりません。」

〔理事長室〕

竜生「久しぶりですね。ことりのお母さん。」

ことり母「ええ、急で申し訳ないけど、」

竜生「はい。」

ことり母「音ノ木坂学院の共学化に向けたテスト生に任命します。」

竜生「……………ええええええ！」

ことり母「予想通りの反応ね。」

竜生「そりやこうなりますよ。」

ことり母「それと、あなたの学年は2年で生徒会にも入ってもらいます。」

竜生「分かりましたよ。」

ことり母「あとアルファスも来ていいから、特別措置として」

竜生「見られてたか、」

ことり母「じゃあお願いね。」

竜生「はい、」

俺は、こうして音ノ木坂学院の生徒になった。

その後、マシンアルファに乗り音ノ木坂学院を去った。

〔下校途中〕

ことり「今日寄ってもいい？」

海未「私も」

穂乃果「いいよ。お母さんには言っておくから。」

そんな事を言いながら帰っていた時だった、

ガンキラー「お前の血は何色だ」

すると、銃を向けてきたの、

穂乃果「ひい！」

海未「ああ、」

ことり「いや、」

ガンキラー「終わりだ。」

アルファス「待て！」

ガンキラー「アルファスか、なら、お前からだ！」

アルファス「ドラゴンインパルス！」

しかし、

ガンキラー「はあ！」

アルファス「ぐはあ！」

俺は、後ろから攻撃された。

その衝撃で、変身を強制解除した。

竜生「ぐつ、はあ、はあ、」

ガンキラー「もう終わりか？なら、」

穂乃果「」

竜生「穂乃果、何してる、逃げる！」

穂乃果「いやだ！竜生君を放って逃げたりできないよ！」

海未「私もです！」

ことり「ことりだって！」

その時、

穂乃果「これは、ベルト？」

ことり「ことりには、こんなのが」

海未「私には音叉が」

竜生「それは、変身する為のベルトだ、まずは、穂乃果」

穂乃果「うん」

竜生「俺の動きを真似しろ」

穂乃果「うん！」

俺の動きを穂乃果は真似した。

そして、

クウガ「これが私」

それに続いて海未とことりも

響鬼と龍騎に変身した。

竜生「ガンキラー！俺は1人じゃない！仲間がいる！」

ガンキラー「それがどうした」

竜生「行くぞ！」

俺はアルファスへと変身した。

クウガ「竜生君」

アルファス「穂乃果、超変身しろ！」

クウガ「うん、超変身！」

クウガは、ペガサスフォームに変わった。

アルファス「ドラゴンバスター！」

クウガ（ペガサス）「ペガサスポウガン！」

2人「シユート！」

ガンキラー「ぐはあ！こんな攻撃で」

☒ストライクベント☒

龍騎「はあ！」

ガンキラー「ぐう！」

響鬼「音撃棒！はあ！やあ！」

ガンキラー「ぐう！ぐはあ！」

アルファス「これで終わりだ。みんな決めるぞ！」

3人「うん！」（はい！）

アルファス「キックアルファ！」

クウガ「マイティーキック！」

響鬼「音撃打　爆裂強打の型！」

龍騎「ファイナルベントドラゴンライダーキック！」

4人「はあああああああ！」

ガンキラー「ダークアルファさまあ！」

ガンキラーは、爆発した。

竜生「終わった。」

穂乃果「これは、もう運命なんだね。」

竜生「ああ、」

海未「そうですね、」

ことり「」

竜生「大丈夫だ、俺がいる。だから頑張ろうぜ。」

3人「うん！」（はい！）

??? 「戦いは、まだ始まったばかりだ。」

第3話

メダルとヴァンパイアと魂

ここは、音ノ木坂学院。

俺は、テスト生として今日から通うことになった。

竜生「はあ、まずは理事長室つと」

???「あなた、ここは女子校よ？」

竜生「知ってるけど、」

???「出ていきなさい。」

竜生「なら着いてこい。」

???「分かったわ。」

俺は、少女と一緒に理事長室に行った。

☒理事長室☒

コンコンコン

ことり母「はい」

竜生「来ましたよ。」

ことり母「早かったわね」

???「理事長!あの人は誰なんですか!」

ことり母「今日からテスト生として来てもらう」

竜生「神龍竜生です。」

???「テスト生って」

ことり母「廃校の危機だからこそ共学化を考えているの。」

???「ですが!」

ことり母「これは決定事項なの。分かる?絢瀬さん?」

絢瀬と呼ばれた少女は、「はい」と返事をした。

それから、こちらを向き

絵里「絢瀬絵里です。生徒会長をしています。」

竜生「なら、これからは、一緒だな。」

絵里「どういう事?」

竜生「生徒会副会長になるからな。」

絵里「分かったわ。でも、信用した訳じゃないから」

竜生「ああ、」

その時だった、

アルフアス「童生、キラーだ！」

童生「分かった。GO！アルフアス！」

俺は、変身し、その場所からテレポートした。

「はあ！」

「あはは！」

「やあ！」

アルフアス「派手にやってるな。」

キバ「ガルルフォーム」

アギト「ストームフォーム」

オーズ（シャウタコンボ）「シャウタコンボ」

アルフアス「キバとアギトとオーズか、」

キバ「はあ！」

アルフアス「はあ！」

互いの剣がぶつかった。

アルフアス「ちっ、とっておきを見せてやる」

俺はカードを取り

アルフアス「イクサカード！」

俺は、仮面ライダーイクサに似たモードになった。

キバ（ガルル）「そんなもので変わる訳じゃ……………」

アルフアス（イクサモード）「イクサジャッジメント！はあ！」

キバ「ぐはあ！」

アルフアス「次はこれだ、バースカード」

オーズ（シャウタ）「スキヤニングチャージ！」

アルフアス（バースモード）「プレストキヤノン！ファイヤー！」

オーズ（シャウタ）「ぐう！」

アルフアス「最後はお前だ。G3カード」

アギト（ストーム）「ハルバートブレイク！」

ドカーン！

アギト「やった。」

アルフアス（G3）「これで終わりだ！」

アギト「嘘、」

アルフアス（G3）「ケルベロスファイヤー！はあ！」

アギト「ぐあ！」

アルファス「浄化カードセット！はあ！」

3人「ぐああああああああ！」

3人は、変身が解かれ気を失っていた。

数時間後

真姫「ここは、」

竜生「病院だ、念の為にな」

真姫「あなたは？」

竜生「神龍竜生。」

真姫「！私は西木野真姫。覚えてる？竜生？」

竜生「もちろんだ。また今度な。」

俺は、そう言つて学校に戻つた。

???「命、燃やすよ」

???「シヨータムね」

「」

第4話 超越する力

竜生「今日からテスト生として来ました。神龍竜生です。」

先生「という訳で、皆仲良くしてやれよ。」

「はあい、」

先生「席は、園田の隣だ、」

竜生「は、はい」

俺は席についた。

穂乃果「まさか、同じクラスなんて」

竜生「俺もびっくりしてるよ。幼なじみと一緒にとか」

海未「それにしても、テスト生とは？」

竜生「さあな。俺は何も知らない。」

ことり「ふうん」

俺が、教室の外を見ると真姫がいた。

竜生「ちよっと、用ができた。」

3人「うん」(はい)

☒廊下☒

竜生「真姫。どうした？」

真姫「この子供達が謝りたいって」

花陽 凜「昨日はすみませんでした。」

竜生「いいよ。その代わり、」

3人「？」

竜生「その力をこれからも使え。正義の為にな。」

3人「はい！」

そんな話をしている時だった

アルファス「敵だ。しかし、キラージじゃない。」

竜生「分かった。穂乃果、海未、ことり、それとお前たち。行くぞ！」

6人「はい！」

俺は、その場所に向かった。

☒工場跡地☒

アルファス「出てこ！ぐはあ！」

俺は、何者かの攻撃を受けた。

クウガ「竜生君！」

〔バインド、プリーズ〕

クウガ「うっ！」

龍騎「動けない」

響鬼「どこから」

アギト「ああ！」

???「ふふ、はあ！」

アギト「ぐはあ！」

???「せい！」

キバ「ぐう！」

???「よっ！」

オーズ「にや！」

アルファス「姿を現せ！カブト、ワイザード、ゴースト！」

カブト「気づいていたのね。」

カブトは、変身を解いた

アルファス「やっぱりな絵里。」

絵里「あなたは？」

俺は変身を解き、

竜生「俺だよ。」

絵里「竜生、」

竜生「あとの二人は、拘束させてもらおう。バインド」

ゴーストとウィザードを捕まえた。

絵里「！、そういう事ね。変身。」

竜生「GO！アルファス！」

カブト「キャストオフ」

アルファス「穂乃果、海未、ことり、真姫、花陽、凜！

お前たちの力を俺に！」

6人「うん！」

カブト「そんなので私が倒せるとでも？」

アルファス「やらなきや分からないだろ！スーパモード！」

カブト「クロックアツ！」

アルファス（スーパ）「遅い、はあ!!」

俺は、回し蹴りでカブトを蹴り飛ばした。

アルファス（スーパ―）「今回は、響鬼の力。音撃棒！
カブト「！」

アルファス（スーパ―）「音撃棒 爆裂強打の型！はあ！」
カブト「ぐはあ！」

アルファス（スーパ―）「浄化カードセット。はあ！」

3人「」

3人から謎の黒い霧が出ていった。

竜生「絵里。」

絵里「私はあなたを信用した訳じゃないから」

竜生「そうか。」

絵里「なんてね。希、にこ、私たちも協力しましょ」

希「そりゃな」

にこ「もちろんよ。」

竜生「それより、お前達は、誰に操られて」

真姫「ダークアルファスと名乗ってたわ。」

アルファス「ダークアルファスだと！」

穂乃果「知ってるの？」

アルファス「ああ、」
アルファスは、ダークアルファスとの話をした。

第5話 正義

絵里「実の兄って」

アルファス「ダークアルファス。元はエルフィス。」

竜生「力を制御できずに暴走し、宇宙へ追放。」

穂乃果「竜生君も知ってるの？」

竜生「前に話を聞いただけだ。」

アルファス「あいつは、姉さんと妹を殺した。」

希「そんな事」

にこ「ひどいわね。」

アルファス「あいつは、俺の手で倒す。」

その時だった、

ダークアルファス「久しいなゼルフィス。」

アルファス「エルフィス。行くぞ竜生。」

竜生「ああ！GO！アルファス！」

アルファスの目はいつもの黒から赤になっていた。

ダークアルファス「はあ！」

アルファス「ぐう！」

ダークアルファス「お前は俺には勝てない。」

アルファス「なんだと！」

ダークアルファス「ダークドラゴンストライク！」

アルファス「ぐう！ぐはあ！」

俺は、その場で倒れた。

ダークアルファス「そんなだから姉も妹も守れないんだよ。あの二人に消えても
らってせいせいするぜ」

アルファス「貴様ア！」

ダークアルファス「はあ！」

アルファス「ぐう！……うう……」

俺は変身を強制解除された。

竜生「」

海未「竜生！」

絵里「気を失ってるだけよ。」

海未「分かりました。とりあえず病院に行きましょう。」

絵里「ええ」

ダークアルファス「さあ、これからが始まりだ。」
ダークアルファスは消えた。

平行世界の地球では

☒内浦☒

W「さあ、あなたの罪を数えろ！」

クラツシユキラー「今更、数えられるかあ！」

W「はあ！」

クラツシユキラー「ぐう！」

W「これで終わりね。」

(ジョーカーマキシマムドライブ)

W「はあああああああ！」

クラツシユキラー「ぐああああああ！」

ドカーン！

W「ふう、」

私は、変身を解いた。

果南「千歌。あれで良かったの？」

千歌「うん。」

果南「仮面ライダーのために組織されたチームか。」

千歌「名前は、そうだ！A q u o r s！」

果南「千歌らしいね。」

千歌「いいでしょ」

そんな話をしていた時に、

コウモリキラー「お前達が仮面ライダーか、」

千歌「だったら？」

コウモリキラー「殺す、」

果南「千歌。行くよ。」

千歌「うん、」

果南「変身」(サイクロン)(ジョーカー)

(STAND UP)

千歌「変身！」

W「さあ、あなたの罪を数えろ！」

ファイズ「このスピードについてこれるかな？はあ！」

コウモリキラー「ぐう！」

W「サイクロンブロー！はあ！」

コウモリキラー「ぐは！」

ファイズ「これで終わりだよ」（931）

コウモリキラー「はあ！」

ファイズ（カイザフォーム）「効かない！」

コウモリキラー「何！」

ファイズ（カイザフォーム）「ゴルドクリムゾン！はあああああ！」

コウモリキラー「ぐうあああああああ！」

ドカーン！

ファイズ「やったね。」

W「うん。」

ダークアルファス「こいつらをあの世界に」

千歌「ふうって何あれ」

果南「こつちに来てる。逃げるよ千歌！」

千歌「うん！」

「だけど、間に合わず私達はワームホールに飲み込まれた。」

第6話 ライダー対ライダー

竜生「アルファス。次は暴走するなよ。」

アルファス「ああ、」

海未「竜生、大丈夫ですか？」

竜生「大丈夫だよ。それと、今日から海未の家で世話になるから」

海未「分かりました。」

そんな時だった、

アルファス「キラーだ！」

竜生「GO！アルファス！」

海未「変身」

俺と海未が着いた時には穂乃果達が戦っていた。

アルファス「ドラゴンセイバー！はあ！」

アナザーキラー「ぐう！」

アルファス「とどめだ！」

アナザーキラー「変身！」

アルファス「何！」

アナザークウガ「はあ！」

アルファス「ぐう！」

クウガ「竜生君！」

ウィザード「バインド！」

アナザークウガ「何、

ゴースト」(シンムゲンシンカ)

キバ」(エンペラードラグリーン)

アナザークウガ「はあ！」

ゴースト(シンムゲン魂)「シンムゲンオメガドライブ！」

キバ(エンペラードラグリーン)「ダークネスエンペラー！」

2人「はあああああああ！」

アナザークウガ「ぐうああ！」

ドカーン！

アルファス「すまん。役に立てなくて」

カブト「仕方ないわ。」

オーズ「そうにや、」

アルファス「ああ、危ない！」

俺は、絵里と凜を庇った。

アルファス「ぐう！」

カブト「竜生！」

アルファス「大丈夫だ。」

ファイズ「君がアルファスだね。」

アルファス「ファイズ。」

ブレイド「はあ！」

電王「そりや！」

アルファス「効かない」

デイクイド W「トリプルエクストリーム！はあ！」

アルファス「ぐう！」

フォーゼ（ロケツト） 鎧武「Wオレンジドリルスパーキング！」

アルファス「ぐあ！」

ドライブ（トライドロロン）「トライドロップ！はあ！」

アルファス「くっ！」

エグゼイド（マイティーアクションクリティカルフィニッシュ！）

アルファス「ぐはあ！」

俺は変身を強制解除された。

竜生「貴様らは、まさか」

ファイズ「終わりだよ。」

クウガ「マイティーキック！はあ！」

ファイズ「ぐう！」

ブレイド「ライトニングブラスト！」

アギト「ライダーキック！はあ！」

ブレイド「ぐは！」

電王「私の必殺技。パート2」

龍騎（ソードベント）「はあ！」

電王「ぐっ！」

デイクイド W「トリプルエクストリーム！」

ウイザード「バインド！」

W「ぐう！」

デイケイド「何！」

オーズ「スキヤニングチャージ！はあ！」

2人「ぐあ！」

フオーゼ 鎧武「Wオレンジドリルスパーキング！」

響鬼紅「音撃棒 爆裂真紅の型！」

フオーゼ 鎧武「ぐう！」

カブト（ハイパー）「マキシマムハイパーサイクロン！」

2人「ぐはあ！」

エグゼイド「はあ！」

キバ「その程度かしら？」

エグゼイド「えっ、」

ゴースト「オメガドライブ！はあ！」

エグゼイド「ぐう！」

ドライブ「はあ！」

アルファス「効かない！マツハ！チエイサー！」

ドライブ（ファイヤーオールエンジン！）「トライ！」

アルファス（チエイサーマツハモード）

「チエイサーマツハエンド！」

ドライブ「ぐあ！」

突如、襲ってきた9人の戦士は、変身を強制解除した。

千歌「つよい、」

竜生「なんで俺たちを攻撃した。」

千歌「キラーが出たって聞いて」

竜生「それなら、俺達が倒した。」

千歌「なら私達、間違えて」

竜生「だろうな。」

9人「すみませんでした。」

竜生「はあ、ま、人は間違う時もある。お前たち。」

9人「はい！」

竜生「俺達、10人の仲間になれ。」

9人「はい！」

竜生「それと、仮面ライダーの力を持った者で組織されたチーム（μ s）が正式に認められた。」

千歌「μ s。私達の世界では、既に解散しています。」

竜生「平行世界から来たのか！誰に飛ばされてきた！」

海未「竜生、」

竜生「ああ、ごめん。」

千歌「いえ、私達は「A q o u r s」です。μ sに協力させてもらいます。」

竜生「ああ、よろしく。」

勘違いによりライダー同士の対決が起こりかけたが、

2つのチームが協力関係を結んだ。

竜生「ダークアルファス。絶対に倒してやる。」

第7話 新しい力

竜生「やっぱりダメか…」

海未「新しい力ですか、」

竜生「ああ、この力をものにしないと」

アルファス「焦りは禁物だ竜生。」

竜生「分かっているけど、」

海未「竜生、」

俺は、屋上から教室に戻った。

教室では、

「あの人は、信用出来ない！」

「学園の品が落ちる」

などと色々言っていた。

そんな中、

穂乃果「そうやって言っても、もうクラスの1人なんだから」

ことり「また、クラスメイトを亡くすことになるよ？」

「うう、ごめんなさい。」

「でも、」

穂乃果「信用出来ないならこれから信用できるようになるから、」

「うん、」

クラスメイトが亡くなった？

一体誰が、

竜生「なあ、さつきクラスメイトを亡くす事になるって言ったよな」

ことり「うん、」

竜生「名前を覚えてもらえるか？」

ことり「うん、亡くなったのは、結城零奈。」

竜生「そうか。嫌なことを聞いたな」

ことり「ううん」

その時だった、

果南「キラールが出たよ！」

果南からの知らせに

竜生「分かった。今から、海未と向かう。鞠莉と持ちこたえてくれ。」

果南「分かったよ。」

竜生「海未、行くぞ！」

海未「はい！」

俺と海未は教室を飛び出した。

W「ぐう！」

ドライブ「ぐは！」

ドラゴンキラー「その程度か、」

アルファス「はあ！」

ドラゴンキラー「ぐう、」

アルファス「ドラゴンキラー、」

ドラゴンキラー「アルファス、はあ！」

アルファス「ぐう！」

響鬼「鬼火！」

ドラゴンキラー「ぐう！」

W「ならこれで」（メタル）（トリガー）

ドラゴンキラー「ドラゴンセイバー！」

W 「メタルシャフト、トリガーマグナム」

ドラゴンキラー「はあ！」

W 「スナイパーモード！シユート！」

ドラゴンキラー「ぐう！」

ドライブ「(タイプチェイサー)」

ドラゴンキラー「があああ！」

ドライブ「フルスロットルで行くでえす。」

ドラゴンキラー「ドラゴンストライク！」

ドライブ「チェイサードロップ！はあ！」

ドラゴンキラー「なかなかやるな、」

アルファス「竜生、あれを試すぞ。」

竜生（ああ！）

俺は、クウガと1号のカードを取り、

アルファス「2つの力よ。今1つに！」

ドラゴンキラー「はあ！」

ドカーン！

響鬼「竜生！」

W 「ああ！」

ドライブ 「なっ！」

アルファス 「俺なら大丈夫だ。」

火の風が起こった。

ドラゴンキラー 「なんだこれは！」

アルファス 「完成。マイティーストーム」

ドラゴンキラー 「ふざけるなあ！」

アルファス 「マイティークック！」

ドラゴンキラー 「ぐう！」

アルファス 「ペガサーストームファイナリー！」

ドラゴンキラー 「ぐうあああああ！」

ドカーン！

アルファス 「完成した。これで、」

響鬼 「そうですね、」

俺は、またひとつ新しい力を手に入れた。

「ダークアルファス」「やるね。でも、事実を知ったらどうなるかな？」

??? ダークアルファスは、変身を解除した。
「やるってたらやる。最後までね。」

第8話 光と闇のドラゴンその1

〔音ノ木坂学院 生徒会室〕

竜生「ダークアルファス。一体誰が」

絵里「どうかしたの？」

竜生「いや、ダークアルファスについてな、」

絵里「そう。希何か分かった？」

希「ううん。なにも分からんわ。」

竜生「はあ、」

俺は、ダークアルファスの事を考えていた時、

ことり「キラールが出たって」

竜生「分かった。行くぞ！GO！アルファス！」

ことり「変身！」

俺とことりは、キラールが暴れている場所に着いた
キラールアブレラ「アルファスか、」

アルファス「キラートとして甦ったかエージェントアブレラ、」

キラートアブレラ「はあ！」

アルファス「ぐう！」

龍騎「ドラゴンライダーキック！」

キラートアブレラ「ぐあ！」

アルファス「こうなったら、デカレンジャーアーマー！」

俺の体にデカレンジャーのマークが入ったアーマーが装着された。

アルファス「Dマグナム！はあ！」

キラートアブレラ「ぐう！」

アルファス「Dスナイパー！シユート！」

キラートアブレラ「ぐあ！やるな、」

アルファス「これで、終わりだ。Dバズーカ！」

キラートアブレラ「何！」

アルファス「シユート！」

キラートアブレラ「ぐああああああああ！」

ドカーン！

キラートアブレラは、爆発した。

しかし、

ダークアルファス「やるね。」

アルファス「ダークアルファス！」

ダークアルファス「はあ！」

アルファス「ぐう！」

ダークアルファス「その程度なの？」

アルファス「貴様、これで、 그리스ブリザード」

ダークアルファス「はあ！」

アルファス「グレイシャルフィニッシュ！」

ダークアルファス「ぐあああああ！」

ドカーン！

アルファス「はあ、はあ、」

ダークアルファスは、変身が解かっていた。

その姿を見て、俺は愕然とした。

その姿は、

アルファス「穂乃果、」

穂乃果「バレちゃった。」

そう、俺の幼なじみの穂乃果であつた。

俺は変身を解き、

竜生「なんで、」

穂乃果「私は、こんな世界どうでもよかつた。」

竜生「!…まさか、結城零奈を殺したのも!」

穂乃果「そう…私が殺したの。」

竜生「お前の事を信じてたのに、」

穂乃果「そうだと思つたよ。でもね、これが現実なんだよ!」

竜生「」

俺は、言葉が出なかつた。

その他のメンバーも来た。

海未「穂乃果!」

穂乃果「来たんだ。」

花陽「なんで、」

真姫「まさかあなたが、」

凜「穂乃果ちゃん、」

絵里「穂乃果」

希「チームやと思ってたんやけど」

にこ「最低ね。」

穂乃果「なんともいいなよ。GO！ダークアルファス！」

ダークアルファス「私には、勝てないんだから、」

竜生「GO、」

アルファス「はあ！」

ダークアルファス「ぐう！」

アルファス「はあ！でや！」

ダークアルファス「ぐう！ぐは！」

アルファス「銀河一刀流奥義ベガインパルス！」

ダークアルファス「効かないよ！はあ！」

アルファス「ぐう！」

ダークアルファス「この戦いは、改めて2人でしよう。」

そう言って、ダークアルファス、穂乃果は、去っていった。

竜生「うあああああああ！」
そこには、俺の叫び声だけが響いた。

第9話 友

がん！

竜生「穂乃果のやつ」

海未「竜生、」

俺は、穂乃果の裏切りに腹が立った。

絵里が来て、

絵里「竜生、理事長が呼んでるわよ」

竜生「ああ、今行く。」

俺は、理事長室に向かった。

〔理事長室〕

コンコンコン

ことり母「どうぞ」

竜生「失礼します。」

ことり母「来たわね。」

童生「穂乃果の事ですか？それとも、別件ですか？」

ことり母「察しがいいわね。」

そこには、見知らぬ3人が立っていた。

ことり母「この人達もテスト生で来てもらったの。」

御剣「よお、童生」

童生「御剣、黒闇、月影、」

黒闇「覚えていてくれたんですね。」

月影「これから宜しく」

童生「ああ、」

ことり母「話は終わったかしら？」

童生「はい。で、穂乃果の件ですか、」

ことりのお母さんは、パソコンに届いた動画を見せてきた。

そこには、

穂乃果（童生君。この数日の間に、音ノ木坂学院を壊しに行く。そして、あなたの大
事なものを全部奪ってやる。さあ、私と童生君どっちが勝つか？あははははは）

映像は、そこでとまった。

童生「穂乃果、」

アルファス「竜生、キラーだ、」

竜生「ああ、千歌、曜、梨子、聞いたな。行くぞ」

3人「うん！」

ダークキラーベリアル「はあ！」

アルファス「ドラゴンインパルス！」

俺は、攻撃を防いだ。

ダークキラーベリアル「アルファスか。」

アルファス「ベリアル。ゼロと一緒に倒したつもりだったが」

ダークキラーベリアル「はあ！」

アルファス「やれ、」

ファイズ「クリムゾンスマッシュ！」

ダークキラーベリアル「ぐう！」

ブレイド（キング）「ロイヤルストレートフラッシュ！」

ダークキラーベリアル「ぐは！」

エグゼイド「クリティカルフィニッシュ！」

ダークキラーベリアル「ぐあ！」

アルファス「弱いな。」

ダークキラーベリアル「ベリアルサンダー！」

ドカーン！

ダークキラーベリアル「やったか、」

アルファス「ゼロアーマー、」

ダークキラーベリアル「何！」

アルファス（ゼロ）「ワイドゼロショット！はあ！」

ダークキラーベリアル「ぐああああああ！」

ドカーン！

ダークキラーベリアルから人間の姿になった時衝撃を受けた。

竜生「なんでだ、」

千歌「竜生君？」

竜生「にこ、」

にこは、灰になりウィザードのベルトとリングがその場に残った。

竜生「穂乃果だけは、絶対に許さない！」

千歌「竜生君、」

曜「今はそつとしておこう？」

千歌「うん、」

千歌達が帰ってした後、雨が降り出し、俺は、ずぶ濡れで海未の家に帰った。

第10話 束の間の休息

海未「竜生、起きてください。」

竜生「あと少し、」

今日は、土曜日だった。

海未「出かけますよ。」

竜生「分かった。」

俺は、寝起きの状態で、出かける準備をした。

竜生「今日は、キラーも出てきそうにないし、」

海未「休日ですね。」

竜生「ああ、ライドアルファ」

俺が、叫ぶと車型のマシンが現れた。

海未「どこに行きましょうか、」

竜生「服屋に行こうか」

海未「分かりました。」

竜生「なら、」

俺は、車を走らせた。

〔服屋〕

竜生「着いた。」

海未「選んであげます。」

竜生「ありがとな。」

俺と海未は、店の中に入った。

竜生「いろんなものがあるなあ」

海未「ですね。」

竜生「海未には、これが似合いそうだな」

俺は、清楚系のワンピースを渡した。

海未「そうですか？」

竜生「ああ、」

海未「なら、これにします。」

竜生「次は、俺の服を選んでくれ、」

海未「分かりました。」

そうやって、海未は俺の服を選んでくれた。

海未「これはどうでしょうか？」

竜生「ライダーズジャケットか。いいな。」

俺は、試着してみた。

海未「似合ってますよ、竜生。」

竜生「なら、これにするか。」

海未「はい。」

竜生「俺が買ってくるよ。」

海未「ですが、」

竜生「いいから、」

海未「はい、」

俺は、服を買った。

竜生「海未、次は、どこ行く？」

海未「そうですね。お昼にでもしますか？」

竜生「そうだな。」

俺は、海未を乗せ車を走らせた。

〔車の中〕

竜生「お昼何にする？」

海未「ハンバーグが食べたいです。」

竜生「海未は、昔から好きだもんな。」

海未「はい。」

竜生「なら、ウマイ所に連れてってやるよ。」

海未「ホントですか！」

竜生「ああ、」

俺は、行きつけのハンバーグ屋に向けて車を走らせた。

〔ハンバーグ屋〕

竜生「ここだよ。」

海未「高そうですね。」

竜生「それがな、」

店の中に入り、メニューを見せた。

海未「安いですね。」

竜生「だろ？俺はデミグラスソースかな。」

海未「私は、チーズで、」

数分後、

竜生「きたきた。」

海未「美味しそう。」

竜生「なら、いただきます。」

海未「いただきます。」

パクッ

海未「美味しい。」

竜生「だな。」

海未「ですが、竜生のハンバーグが一番です。」

竜生「ありがとな。」

海未「ここは、私が払います。」

竜生「いいのか？」

海未「服のお礼です。」

竜生「なら、お言葉に甘えて、」

海未は、支払いをしに行った。

〔車の中〕

海未「帰りましょうか」

竜生「ああ、」

海未「それと、」

竜生「なんだ？」

海未「私達、付き合いませんか？」

竜生「ふつ、まさか海未から言われるとは、」

海未「えつ、」

竜生「いいよ。付き合おう。」

海未「はい！」

海未は、嬉しそうに返事をした。

第11話 光と闇のドラゴンその2

〔音ノ木坂学院〕

竜生「穂乃果のやつ。」

海未「言わない約束ですよ。」

ことり「そうだよ。」

竜生「うん、ちよつと出てくる」

俺は、屋上に向かった。

〔屋上〕

竜生「はあ、」

希「どんよりしとるな」

竜生「まあな。」

希「穂乃果ちゃんの事やろ？」

竜生「もしかしたら、殺すかもしれないからな。」

希「竜生君、」

竜生「希、死ぬなよ。」

俺は、そう言い残し教室に戻った。

希「考え込んでるな、」

??? 「なら、犠牲になってよ。希ちゃん」

希「！」

〔教室〕

俺が、教室に戻った時だった、

穂乃果「今すぐ、この場所に来い。希ちゃんがどうなつてもいいのかな？」

竜生「！…行つてくる…」

海未「竜生！」

竜生「これは、俺がなんとかしないとイケないから、」

海未「分かりました。」

御剣「俺達も、行くぜ。」

竜生「ああ、」

俺は、御剣、黒闇、月影とともに穂乃果の元に向かった。

〔工場跡地〕

竜生「穂乃果！出てこい！」

穂乃果「」

御剣「あいつが、」

黒闇「ダークアルファス、」

月影「竜生、準備は出来てるな。」

竜生「もちろんだ、希、今助けてやる。」

希「竜生君、」

穂乃果「なら、全員で来な。GO！ダークアルファス！」

4人「GO！」

俺たちは、変身した。

ガンマ（御剣）「はあ！」

ダークアルファス「遅い、クロックアップ！」

ベータ（黒闇）「無駄だよ。スペリオン光線！」

ダークアルファス「ぐう！」

オメガ（月影）「ゴルドバーンアウト、はあ！」

ダークアルファス「ぐあ！」

オメガ「アルファス。決める！」

アルファス「ボルテックファイニッシュ！はあ！」

ダークアルファス「ふん！」

アルファス「何！」

ダークアルファス「はあ！」

アルファス「ぐあ！」

俺は、壁にぶつかり変身が解除された。

竜生「かは！、はあ、はあ、」

希「竜生君！」

ダークアルファス「しね！」

希「やめて、」

ダークアルファス「はあ！」

竜生「やめろ！」

ダークアルファスが、振り下ろした剣は希を斬った。

竜生「希！」

希「……………」

竜生「うう、ああああああああ！」

ダークアルファス「ほんと弱いな。」

竜生「ふざけるな、にこも希も、お前のせいで」

ダークアルファス「何ができるっていうの？」

竜生「お前を倒す。それだけだあ！」

俺の体が光だし、アルファス（スーパモード）になり、

アルファス（スーパ）「来い。ハイパードラゴン」

ダークアルファス「何！」

アルファス（スーパ）「ハイパーアーマー！」

俺は、ハイパーモードになった。

アルファス（ハイパー）「ハイパーモード、」

ダークアルファス「はあ！」

アルファス（ハイパー）「効かねえよ。はあ！」

俺は、攻撃を弾き、

アルファス（ハイパー）「流星ドラゴンブレイク！」

ダークアルファス「ぐはあ！」

ダークアルファスは、変身を解除した。

穂乃果「やるね。」

アルファス「穂乃果」

穂乃果は、その場から姿を消した。

竜生「希、ごめん。ごめん。」

俺は、希を抱えて泣いた。

第12話 ドラゴンモード

〔音ノ木坂学院〕

海未「今なんて」

竜生「にこと希が穂乃果に殺された。」

絵里「そう。」

竜生「俺のせいだ。」

ダイヤ「あまり自分を責めないで」

竜生「ダイヤ。」

俺は、穂乃果を憎んでいた。

この時、それが最悪の状況を生み出すことになると思わなかった。

その頃

穂乃果「もう終わり？」

ダイヤ「はあ、はあ、」

フォーゼ「もう一回」

電王「うん、」

穂乃果「GO！」

ダイケイド「**デ**イメンションキック！」

フォーゼ「**ライ**ダーロケットドリルキック！」

電王「ヨハネの必殺技**Part 2**！」

ダークアルファス「はあ！」

3人「ぐあ！」

ダークアルファス「これで、終わりだ。ドラゴンインパルス！」

3人「ぐはあ！」

穂乃果「あははははははは」

善子「待、て、」

花丸「」

ルビィ「」

3人は、穂乃果によって殺された。

〔音ノ木坂学院〕

ダイヤ「ルビィに連絡できませんわ」

竜生「何かあったんじや」

その時、

穂乃果「ふふ。」

竜生「穂乃果、」

穂乃果「探してるのはこの子達？」

ダイヤ「ルビィ、」

竜生「貴様！」

穂乃果「私を殺さないで、大事なものを全部奪うよ。」

竜生「させない。絶対に！」

穂乃果「なら、絵里ちゃんとその子のお姉さんと来い。」

竜生「ああ、行ってやる。」

俺は、絵里とダイヤを乗せ指定された場所に行った。

竜生「ここか、」

絵里「穂乃果は、」

ダイヤ「あそこに」

穂乃果「来たね。GO！ダークアルファス！」

竜生「GO！アルファス！」

絵里　　ダイヤ「変身！」

ダークアルファス「はあ！」

アルファス「ぐっ！」

ダークアルファス「その程度なの？」

カブト「はあ！」

鎧武「せや！」

ダークアルファス「ぐう！」

アルファス「竜生、お前の全て俺に預けろ」

竜生（ああ！）

アルファス「ぐうああああああ！」

カブト「竜生！」

鎧武「あの姿は、」

アルファス「ぐう、」

ダークアルファス「ドラゴンモードか、はあ！」

アルファス「ふん！」

ダークアルファス「くっ、」

アルファス「ドラゴンデスクライシス！」

ダークアルファス「ぐはあ！」

ダークアルファスは、変身を解除した。

穂乃果「かは、今日の所はこれまでかな、」

カブト「穂乃果！」

アルファス（童生）「絵里、」

カブト「童生！」

アルファス「はあ！」

穂乃果「！」

アルファス（童生）「俺事撃て」

カブト「分かったわ。ハイパーキヤストオフ！」

穂乃果「離せ！」

アルファス「ぐう！」

カブト「マキシマムハイパーサイクロン！はあ！」

アルファス「ぐう！」

穂乃果「ぐあああああああ！」

穂乃果は、叫びながら消えていった。
俺は、

竜生「」

絵里「竜生！しっかり！」

竜生は、意識がなかった。

絵里「病院に連れていかないと、」

私は、竜生を病院に運んだ。

第13話
私の未来

〔病院〕

竜生「」

絵里「海未、」

海未「絵里。竜生は、」

絵里「命に別状は無いわ。」

海未「よかったです。」

絵里「でも、私は、」

海未「絵里がした事は、正しい事です。」

絵里「学校に行ってくるわ。」

海未「分かりました。」

私は、学校に向かった。

〔音ノ木坂学院 生徒会室〕

絵里「これを使わないと、」

真姫「それは？」

絵里「真姫、竜生が隠してくれてたものよ。」

真姫「変身したら、死ぬんじゃないの？」

絵里「よく分かってるわね。」

真姫「もしかして、穂乃果に使うき？」

絵里「ええ。」

真姫「そう、」

私は、ブリザードナツクルとビルドドライバーを手に取り、穂乃果のところに向かった。

穂乃果「来たね。」

絵里「倒す。」

穂乃果「無理だよ。GO！ダークアルファス！」

絵里「変身！」

ダークアルファス「はあ！」

カブト「うぐ！はあ！」

ダークアルファス「そんなもの！はあ！」

カブト「ぐはあ！」

ダークアルファス「弱いね。」

カブト「マキシマムハイパーサイクロン！」

ダークアルファス「貴様が喰らえ！はあ！」

カブト「ぐああああああ！」

私は、変身を解除され、

絵里「かは！」

吐血した。

穂乃果「所詮、その程度なんだよ。」

絵里「その程度？」

穂乃果「そうだよ」

絵里「なら、これでも？」

私は、ビルドドライバートとグリスブリザードナツクルを

手に取った

穂乃果「それは、まさか！」

絵里「竜生、私の未来、貴方に託すわ。」

私は、ビルドドライバーにブリザードナックルをはめ、
持ち手を回した。

Are you ready?

私は、返答するように

絵里「できてるわ。」

「激凍心火！グリスブリザード！」

ガギガギガギガギン

私は、グリスブリザードに変身した。

グリスブリザード「心火を燃やしてぶっ潰す。」

穂乃果「GO！ダークアルファス！」

ダークアルファス「はあ！」

グリスブリザード「らあ！」

ダークアルファス「ぐあ！」

グリスブリザード「シングルアイス！」

ダークアルファス「ぐう！」

グリスブリザード「これで、ぐう！」

ダークアルファス「ドラゴンクライシス！」

グリスブリザード「グレイシャルフィニッシュ！」

グリスブリザード「グレイシャルフィニッシュ！」

俺は、その場を目撃した。

ダークアルファス「はああああああ！」

グリスブリザード「はああああああ！」

竜生「絵里！やめろ！」

グリスブリザード「はあ！」

ダークアルファス「ぐあ！」

絵里は、勝ったと思っていた、

穂乃果「次は、ない。残ってるやつでかかってこい。」

穂乃果は、そう言い残し消えた。

絵里は、

絵里「」

竜生「絵里！」

絵里「竜…生…」

竜生「馬鹿野郎。使うなってあれほど言ったのに、」

絵里「ごめ…ん…これ…」

絵里は、俺に手紙を渡した。

竜生「絵里。」

絵里「私…の…未来…たくし…たよ…」

絵里は、息を引き取った。

竜生「絵里、」

俺は、抱きしめた。

第14話 絆

穂乃果「地球の最後の日が訪れる。この体も用済みかな」
そこには、1人の少女が磔にされていた。

??? 「助けて… 竜生君…」

〔音ノ木坂学院 中庭〕

アルファス「はあ！」

キラー「ぐう！ぐあ！」

響鬼「はあ！」

キラー「ぐはあ！」

キラーの雑魚は消えた。

竜生「雑魚が増えてきた。もしかしたらな、」

海未「地球の最後の日」

凜「どうなるの？」

竜生「俺たちを消す。だけど止めてみせる。」

海未「はい。」

俺は、穂乃果を絶対に救う、
そう心に誓った。

穂乃果「さあ、約束の地へ、」

キラー「おおー！」

穂乃果「誰も知らない最悪の結末を見せてやる。」

「それは、どうか……はあ！」

穂乃果「竜生君、」

竜生「穂乃果、」

穂乃果「GO！ダークアルファス！」

竜生「GO！アルファス！」

ダークアルファス「はあ！」

アルファス「ぐう！海未達は雑魚の処理を！」

装甲響鬼 鬼神紫炎「はい！」

ダークアルファス「1人で私を倒せるの？」

アルファス「やれるだけの事をするだけだア！」

ダークアルファス「この光は！」

アルファス（ハイパー）「はあ！」

ダークアルファス「ぐう！」

アルファス（ハイパー）「来い！マスタードラゴン！」

俺は、マスタードラゴンと

アルファス（ハイパー）「戻ってこい！お前達！」

殺された絵里達を呼び戻した。

アルファス「完成、マスターモード、」

カブト「それによく呼び戻そうと思ったわね。」

アルファス（マスター）「無茶も承知でしないとダメだろ？」

カブト「そうね。」

装甲響鬼 鬼神紫炎「はあ！」

海未達は、雑魚を倒していた。

ダークアルファス「貴様ら！これを見てもまだやるか」

アルファス（マスター）「何、！」

海未「ほ、穂乃果！」

穂乃果「海未ちゃん、竜生君、」

アルファス（マスター）「ダークアルファス。」

ダークアルファス「どうしよっかなあ、」

ダークアルファスの持っていた剣が穂乃果に向けられた。

アルファス（マスター）「やめろお！」

ダークアルファス「はあ！」

穂乃果「…」

アルファス（マスター）「大丈夫か、穂乃果、」

穂乃果「竜生君！」

ダークアルファス「しね！はあ！」

アルファス「ぐはあ！ここでお前も！」

ダークアルファス「何！」

俺は、ダークアルファスを空に投げた。

アルファス（マスター）「これが、俺たちの絆だ！」

ダークアルファス「黙れ！ドラゴンクライシス！」

アルファス（マスター）「ライダーキーツク！」

俺は、ダークアルファスの攻撃を受けながら蹴り込んだ。

ダークアルファス「俺を倒しても、まだあいつがア！」

ドカーン！

ダークアルファスを倒した。

が、俺は、

竜生「」

空から落ちた。

海未「竜生！」

俺の体は、上しか残っていなかった。

海未「！」

竜生「海未、」

海未「なんで、私の事を守るって」

竜生「ご……………ん……………」

海未「竜生、」

竜生「あ……………り……………が……………と……………」

俺の体は、光の粒子となって消えた。

海未「うあああああああああ！」

ただそこには、海未の泣き叫ぶ声とそれを見ていることしか出来ない皆の姿だけがあつた。

第1章最終話 叶え

海未「竜生、行ってきます。」

私は、竜生の遺影に手を合わせ、学校に向かいました。

今日は、私達の卒業式です。

竜生も出る予定だった。

〔音ノ木坂学院〕

海未「穂乃果、ことり、おはようございます。」

2人「おはよう、」

2人も元気はなく、暗い顔をしていました。

穂乃果「あれから、1年も経ったんだね。」

海未「はい、早いものです。」

ことり「うん、」

私達は、そんな話をしながら教室へと行きました。

海未「竜生、」

私は、外を見て眩きました。

〔講堂〕

真姫「ご卒業おめでとうございます。」

真姫は、現在生徒会長をしております

花陽は、副会長

凜は、書記を担当しています。

穂乃果「真姫ちゃん、頼もしいよね。」

海未「穂乃果に比べたらね」

穂乃果「うう、」

ことり「ふふ」

ひそひそとそんな話をしているうちに卒業式は、
終わりました。

穂乃果「ねえ、屋上いかない？」

凜「行くにゃ！」

真姫「そうね。」

???「私たちも行つていいかしら？」

穂乃果「絵里ちゃん、うん、」

私達は、屋上に向かいました。

〔屋上〕

穂乃果「ここで別れたんだよね。千歌ちゃん達と、」

海未「でも、いい思い出になりましたね。」

ことり「うん、でも、ね、」

真姫「殆ど戦いに明け暮れたもの。」

凜「そうだにや、」

花陽「竜生君のおかげだよ。こうしていられるのも、」

絵里「そうね。」

希「やけど、」

にこ「希、」

にこは、希の肩に手を置き顔を横に振りました。

希は、それに察し喋るのをやめました。

すると、

真姫「竜生、もう卒業よ。」

真姫は、空に向けて言い始め

穂乃果「また会いたいよ。」

ことり「思い出作ろうよ。」

絵里「迷惑かけてよ。」

希「笑顔にしてよ。」

にこ「夢、応援してよ。」

花陽「帰って来てよ。」

凛「一緒にご飯食べに行こうよ。」

と続き、

最後に、私が、

海未「戻ってきてください！私は、あなたに言い残した事が、あるんですから！」
そう言いました。

すると、

??? 「言い残した事って？海未、」

海未 「！」

私は、聞き覚えのある声の方に振り向くと、

竜生 「久しぶりだな。」

海未 「竜生、」

私は、自然と涙が溢れてきました。

海未 「ううああああ、」

竜生 「泣くなよ。もう死んだりしないから、」

海未 「すう、はい、」

竜生 「で、言い残した事って？」

海未 「付き合って2年ですから。」

竜生 「えっ、」

海未 「結婚しましょ、竜生、」

俺は、逆プロポーズに少し戸惑ったが、

竜生 「喜んで、」

そう、返事を返した。

それから、3年後、
俺たちは、新たな戦いの地に足を踏み出すことになった。

第1章 ダークアルファス編

　　く完く

第2章 怪異・キラ編

第16話 羽川翼

竜生「海未、遅れるぞ、」

海未「はい！」

俺は、海未と一緒に教師になった。

海未「今日からですね。」

竜生「そうだな。」

穂乃果「おはよう！」

ことり「おはよう、」

竜生「遅いぞ。」

海未「そうですよ。」

そんな話をしていた時、

ヴォン、

目の前に突然、ワームホールが現れた。

竜生「お前ら、走れ！」

3人「えっ、うわあ！」

3人は、ワームホールに吸い込まれた。

竜生「仕方ないか、はあ！」

俺も、ワームホールに突入した。

??? 「阿良々木君、どうしたの？空、ばっかり見て、

僕は、阿良々木暦。

そして話しかけてきたのは、羽川翼。

暦「あれが、気になって。」

翼「あれ？」

そこには、謎の穴があった。

3人「うわあああああああ！」

竜生「よっ、ぐう！」

3人「助かった。」

竜生「全くだよここ。」

暦「君たちは？」

竜生「神龍竜生、お前は、」

曆「阿良々木曆。」

竜生「曆か。それとそこの人は、」

翼「羽川翼です。」

竜生「よろしく。」

竜生は、羽川の手首をつかみ、

竜生「お前、何かにはいられてるな、」

翼「嫌だなあ、そんな事、」

と言った時だった。

翼「にははははは、」

羽川は、その姿を禍々しい姿に変えた。

キヤットキラー「アルファス。倒す。」

竜生「出来ねえよ。お前にはな。GO！アルファス！」

キヤットキラー「にやあ！」

アルファス「はあ！」

キヤットキラー「ぐう！」

曆「羽川が、なんで、」

穂乃果「大丈夫だから、」

曆「はい、」

アルファス「はあ！でやあ！」

キヤットキラー「ぐう！ぐあ！」

アルファス「ドラゴンセイバー！はあ！」

キヤットキラー「ぐう！」

アルファス「掴まれ！羽川！」

翼「うん、」

羽川は、俺の伸ばした手に掴まった。

アルファス「はあ！」

翼「あなたは、」

アルファス「ちよつと待ってるエターナルアーマー、」

キヤットキラー「はあ！」

アルファス（エターナル）

「エターナルマキシマムドライブ」

キヤットキラー「にやあああああ！」

ドカーン

キヤットキラーは、爆発した。

アルファス「俺は、仮面ライダーアルファス。」

俺は、変身を解除し、

竜生「あれが、俺の本当の姿だ。」

翼「そうですか、」

竜生「羽川は、猫に見せられてたんだ。」

翼「見せられていた？」

竜生「怪異譚って知ってるか？」

翼「はい、」

竜生「それに猫があつた。」

翼「なら、私は、」

竜生「ああ、それにのつとられていた。」

翼「私が、」

竜生「ほかの人も救いたいなら、これを受け取れ。」

俺は、ビルドドライバーとラビット・タンクのフルボトルを出した。

羽川は、

翼「救いたい、」

それを受け取った。

その頃、

??? 「そろそろかの」

第17話 伝説の吸血鬼

竜生「はあ、」

俺達が見知らぬ世界に来て、1週間

羽川翼の件以来、特に何も起こることはなく、

海未「ここにいたんですか？」

竜生「ああ、」

海未「羽川さんが呼んでましたよ。」

竜生「分かった。」

俺達は、私立直江津高校に転入生として入っていた。

俺と海未は、阿良々木と羽川と同じクラス。

穂乃果とことりは、別のクラス。

羽川「あつ、きたきた。」

竜生「話って？」

羽川「伝説の吸血鬼のこと知ってる？」

竜生「なんだそれ。」

羽川「昔、この地に来たっていうのが残ってて、」

竜生「ふうん。」

そんな話をしてしているうちに日が暮れてきた。

竜生「帰るから。」

羽川「うん、またね。」

竜生「ああ、」

俺は、1人暗い夜道を歩いていたら時だった。

???「かか、」

竜生「誰だ!」

???「何を殺気だてておる」

竜生「分からねえやつにはこうするだろ」

???「お主、名は?」

竜生「神龍竜生、お前は、」

「キスシヨット・アセロラオリオン・ハートアンダーブレード」

竜生「!お前が伝説の吸血鬼、」

キスシヨット「そうじゃな。」

竜生「はあ!」

キスシヨット「その程度で儂に勝てるっても？」

竜生「何？」

キスシヨット「はあ！」

竜生「ぐう！」

俺は、弾き飛ばされた。

竜生「この力、」

アルファス「キラーに乗っ取られている。」

キスシヨット（助けてくれ。）

竜生「GO！アルファス！」

偽キスシヨットは、キラーへと姿を変えた。

アルファス「はあ！」

ヴァンパイアキラー「ぐう！」

アルファス「キラーになると、弱るのか？」

ヴァンパイアキラー「はあ！」

アルファス「くっ！」

その時、

ビルド「はあ！」

ヴァンパイアキラー「ぐう！」

アルファス「羽川、」

ビルド「助けに来たよ。」

アルファス「そうか、さてと、吸血鬼には吸血鬼の力だ」

俺は、キバのカードを取りだし

アルファス「カードセット！キバアーマー！」

キバのアーマーを装着した。

ビルド「はあ！」

ヴァンパイアキラー「ぐう！」

ビルド「今だよ！」

アルファス（キバ）「ダークネスドラゴンフィニッシュ！」

ヴァンパイアキラー「ぐうあああああああああ！」

ドカーン！

ヴァンパイアキラーは、爆発し、

キスショットを救い出した。

キスショット「お主は」

アルファス「仮面ライダーアルファス。」

キスショット「そうかの」

俺は、変身を解き、

竜生「何故キラーに、」

キスショット「突然乗っ取られてな、我が主様も」

竜生「主の名は？」

キスショットは、その名前を言った。

キスショット「阿良々木 暦。」

竜生「！そいつとは、どこではぐれた！」

俺は、キスショットから場所を聞き、

すぐに向かった。

しかし、その場所には、誰もいなかった。

第18話 重さ

穂乃果「ねえ、あれ、」

竜生「？」

俺は、穂乃果が指さした方向を見ると、
1人の少女が落ちてきた。

竜生「よっ、！」

俺は、受け止めたが、

明らかに軽かった。

ひたぎ「私の秘密を知ったわね？」

竜生「体重は？」

ひたぎ「5キロよ」

穂乃果　ことり　海未「5キロ！」

ひたぎ「私には重さがない。」

竜生「そうか、」

そんな話をしてるうちに

竜生「予鈴のチャイムか、海未、行くぞ、」

海未「ええ、」

穂乃果とことりと別れ教室に向かった。

が、その教室にさっきの彼女がいた。

竜生「さっきの、」

海未「ほんとですわね。」

翼「気になるの？」

竜生「名前だけな、」

翼「彼女は、戦場ヶ原ひたぎ」

竜生「戦場ヶ原か、」

俺は、彼女に近づき、

竜生「戦場ヶ原、」

ひたぎ「何？」

竜生「重さがなくなった理由分かるか？」

ひたぎ「突然の事だったから分からないわ。」

竜生「そうか、なら、その理由を明らかにしてやる。」

俺は、戦場ヶ原の頭に手を置き、

竜生「はあ！」

ひたぎ「うっ、ううあああああ！」

戦場ヶ原は、キラーへと姿を変えた。

竜生「お前が重さをなくした正体だな。」

クラブキラー「バレたか。」

竜生「蟹の怪異、ここで終わりだ。」

俺は、クラブキラーを抑え窓の外のグラウンドに出た。

竜生「GO！アルファス！」

クラブキラー「はあ！」

クラブキラーは、ミサイルで攻撃をしてきた。

アルファス「ドラゴンセイバー！はあ！」

俺は、ミサイルを切り刻んだ。

クラブキラー「やるな、」

アルファス「さてと、」

クラブキラー「はあ！」

アルファス「マスターモード！」

ドカーン！

翼「竜生君！」

海未「羽川さん、竜生なら大丈夫ですよ、」

翼「えっ、」

煙の中から、

アルファス（マスター）「その程度か、はあ！」

クラブキラー「ぐう！」

俺は、クラブキラーの中に手を入れ、

アルファス（マスター）「戦場ヶ原！手を伸ばせ！」

ひたぎ「私は、このままでいい、」

アルファス（マスター）「馬鹿野郎！」

ひたぎ「！」

アルファス（マスター）「そんなんでいいのかよ！」

ひたぎ「嫌、嫌だよ、」

戦場ヶ原は、泣き出した。

アルファス（マスター）「なら、掴まれ、」

ひたぎ「ええ、」

俺は、戦場ヶ原をクラブキラーから分離させた。

アルファス（マスター）「海未、穂乃果、ことり！」

響鬼「鬼炎！」

クウガ「ゴウラム！」

龍騎「ドラグレッダー！」

3人は、それぞれ新しいフォームになった。

響鬼（鬼炎）「はあ！」

クラブキラー「ぐう！」

クウガ（ゴウラムマイティー）「マイティーキック！」

クラブキラー「ぐふっ！」

龍騎（ツバイ）「ファイナルベント！」

クラブキラー「ぐは！」

3人「はあ！」

響鬼（鬼炎）「竜生！」

アルファス（マスター）「ああ！」

俺は、3人が組んだ腕をジャンプ台にし飛び、

アルファス（マスター）「マスターファイナルブレイズ！」
クラブキラー「ぐう！あああああああああ！」
ドカーン！
クラブキラーは、爆発した。

その後、戦場ヶ原は、重さを取り戻した。

ひたぎ「あなたのおかげで助かったわ。ありがとう。」

竜生「ああ、それより、誰かを救いたいと思うか？」

ひたぎ「ええ、今回の件でそう思ったわ。」

竜生「なら、これを受け取れ。」

俺は、ジクウドライバーとライドウォッチを渡した。

???「憎い。」

第19話 怪異とキラ

竜生「怪異キラ、そんなものは、存在しないはずなのに、俺は、3体のキラを見て思っていた。

すると、

ひたぎ「また悩んでるの？」

翼「真面目だね。」

竜生「お前らか、」

戦場ヶ原と羽川は、この件以来仲良くなったらしい。

竜生「で、何の用だ、」

ひたぎ「私の後輩の手についてね。」

竜生「手？」

ひたぎ「連れてきてあるわ。神原。」

駿河「はい、」

彼女の腕は、包帯で巻かれていた。

竜生「その包帯の下の手、見せてみる、」

駿河「これだよ。」

竜生「!::猿の手、」

アルファス「キラのものかもな」

神原駿河の右腕は、猿に似た

いや、猿の手をしていた。

竜生「それはいつ頃からだ？」

駿河「1ヶ月ぐらい前から、」

竜生「そうか、」

ひたぎ「なんとかなりそうなの？」

竜生「さあな。」

翼「ふうん」

すると、

駿河「憎い。」

竜生「えっ?::ぐう!」

俺は、首を掴まれた。

竜生「貴様、」

駿河「ぐうあああああああ!」

童生「はあ！」

俺は、神原を蹴り飛ばした。

そこから出てきたのは、

モンキーキラー「ぐうう！」

童生「現したか、GO！アルファス！」

アルファス「はあ！」

モンキーキラー「せい！」

アルファス「ぐう！」

俺は、蹴りを喰らった。

ひたぎ 翼「変身！」

(ラビット！タンク！ベストマッチ！)

鋼のムーンサルト！)

(ライダータイム！仮面ライダージオウ！)

ビルド「はあ！」

ジオウ「せい！」

モンキーキラー「ぐう！ぐあ！」

ジオウ「これよ、」(グリスブリザード)

(アーマータイム！グリスブリザード！)

モンキーキラー「はあ！」

ジオウ(グリスブリザード)「効かないわね。はあ！」

私は、モンキーキラーを凍らし、

ジオウ「翼！」

ビルド「ビルドアップ」

私は、ラビットドラゴンになり、

ビルド「Be | The | One |ファイニッシュ！」

モンキーキラー「ぐう！」

ビルド「竜生君！」

アルファス「ああ！」

モンキーキラー「はあああああ！」

アルファス「その程度か、はあ！」

俺は、モンキーキラーの右腕を斬り、

アルファス「ドラゴンストライク！」

モンキーキラー「ぐうあああああ！」

ドカーン!

神原駿河の右腕は、元に戻った。

駿河「ありがとうございます。」

竜生「礼なんていいよ、」

駿河「ですが、」

竜生「当たり前のことをしたただけだから、」

駿河「はい、」

この裏では、

怪異王「私が、行く。」

スネークキラー「その前に、私におまかせください。」

怪異王「アルファスを倒せるのか？」

スネークキラー「はい」

怪異王とスネークキラーのアルファス暗殺計画が立てられていた。

第20話 アルファス暗殺計画

竜生「はあ！はあ！」

アルファス「せいが出るな。」

竜生「うるさい、」

俺は、日課の素振りをしていた。

海未「あまり無理しない方が、」

竜生「でも、」

海未「どこか行きましょ。」

俺は、海未に引つ張られ出掛ける羽目になった。

海未「弓道の店に行ってもいいですか？」

竜生「いいぞ。俺も見たかったし、」

海未「はい。」

俺たちは、弓道の店に入った。

海未「高いですね。」

竜生「そうだな。」

海未「それでも、欲しいんですよね。」

竜生「俺が買ってやるよ。」

海未「ほんとですか！」

竜生「おう、俺は、これかな。」

海未「私は、これで、」

俺は、海未の分と自分の分の弓道の道具を買った。

(その裏では、)

スネークキラー「向かいます。」

怪異王「ああ、」

スネークキラーは、取り込んだ少女になりました。

アルファス「あそこにいる子に声をかけてくれ」

竜生「?わかった、君どうした？」

撫子「助けて、」

海未「何かあったのですか？」

撫子「蛇に巻き付かれて、」

竜生「蛇？」

俺が聞いた瞬間、

アルファス「2人とも離れろ！」

海未「はい！」

竜生「ああ！」

撫子「あなたがアルファス。」

竜生「怪異キラーだな。」

撫子「よく分かったな。」

少女は、姿を変えた。

スネークキラー「はあ！」

竜生「GO！アルファス！」

海未「変身！」

アルファス「ぐう！」

俺は、スネークキラーの攻撃を防いだ。

響鬼「はあ！」

スネークキラー「ぐう！」

アルファス「ドラゴンセイバー！はあ！」

スネークキラー「ぐは！」

アルファス「終わりだ！」

その時、

スネークキラー「毒霧！」

アルファス「ぐう！」

スネークキラー「ははは！毒は、数分で周り死に至る。」

アルファス「仕方ないか、はあ！」

竜生「ぐう！」

響鬼「竜生！」

俺は、アルファスから分離された。

スネークキラー「はあ！」

分身したスネークキラーは、アルファスの体力を奪っていった。

アルファス「はあ、はあ、最後の力だ。」

スネークキラー「その体で、無駄だ！」

アルファス「ドラゴンフィニッシュ！」

スネークキラー「はあ！」

アルファス「ぐう！ぐは！」

アルファスは、その場で倒れた。

竜生「アルファス！」

スネークキラー「はあ！」

アルファスは、礫にされた。

竜生「そんな、」

海未「竜生、」

竜生「ぐうあああああああ！」

スネークキラー「明日、アルファスを殺す。」

竜生「！」

スネークキラー「ははははははは！」

スネークキラーは、消えた。

第21話 神龍覚醒

竜生「アルファス、」

俺は、磔にされたアルファスを見ていた。

海未「竜生、」

翼「竜生君、」

竜生「大丈夫だから、」

俺は、そう言つて帰つた。

【次の日】

スネークキラー「さあ、待ちに待つた時間だ。」

アルファス「……………」

竜生「させるか、」(スカル)(ジョーカー)

スネークキラー「そんな急場しのぎな姿で、」

竜生「俺は、信じている。アルファスが戻ってくる事を」

俺は、W(スカルジョーカー)に変身した。

W (S J) 「はあ!」

スネークキラー 「ぐう!」

W (S J) 「スカルマグナム、シユート!」

スネークキラー 「ぐふっ!」

W (S J) 「もう、終わりか?」

スネークキラー 「はあ!」

W (S J) 「ふん!」

「スカルマキシマムドライブ」

W (S J) 「はああああああ!」

スネークキラー 「ぐう!」

W (S J) 「何!」

スネークキラー 「はあ!」

W (S J) 「ぐう!」

俺は、変身を強制的に解除された。

竜生 「ぐう、くそ、」

スネークキラー 「アルファスの前にお前からだ。」

竜生 「」

その時、

響鬼「竜生！」

竜生「海未！どうして！」

響鬼「あなたが死んだら私はどうしたらいいんですか！」

スネークキラー「はあ！」

響鬼「ぐう！ぐは！」

竜生「そうだよな。俺は、海未を守るんだ。だから！」

俺は、アルファスに手を伸ばし、

竜生「アルファス！お前の力が必要だ！目を覚ませ！」

すると、謎の光に覆われ、

竜生「アルファス。」

アルファス「行くぞ、竜生！」

竜生「ああ！」

俺は、アルファスと再び一心同体となり、

竜生「GO！アルファス！」

スネークキラー「何！」

アルファス「はあ！」

スネークキラー「ぐう！」

アルファス「今こそ、本当の力を見せてやる！」

俺は、叫んだ。

アルファス「神龍覚醒！」

俺は、仮面ライダーから神龍騎士へと変化した。

アルファス「神龍騎士アルファス！」

スネークキラー「取り戻したというのか！」

アルファス「神龍剣！はあ！」

スネークキラー「ぐう！ぐは！」

アルファス「ドラゴンスマツシュ！」

スネークキラー「ぐふっ！」

アルファス「これで終わりだ！神龍斬！」

スネークキラー「ぐうあああああ！」

ドカーン！

スネークキラーは、爆発した。

竜生「これがアルファスの本当の力。」

海未「よかったですね。」

竜生「ああ、」

その時だった、

怪異王「よくやった、アルファス。」

竜生「貴様は、」

怪異王「怪異王いやダークアルファス。」

竜生「生きていたのか！」

ダークアルファス「簡単には死なないからな。」

竜生「なら、この戦いで、完全決着をつけてやる。」

第2章最終話

決着ダークアルファス

ダークアルファス「はあ！」

アルファス「ぐう！」

ダークアルファス「その程度なのか？」

アルファス「貴様、」

ダークアルファスは、変身を解いた。

そこに居たのは

アルファス「な！」

翼 ひたぎ「！」

暦（ダークアルファス）「こいつの体に憑依したのさ」

アルファス「はあ！」

暦（ダークアルファス）「ふん！」

俺は、攻撃をかわされ投げ飛ばされた。

竜生「ぐう！」

曆（ダークアルファス）「死ね！」

竜生「」

海未「竜生！」

竜生「はあ！」

俺は、阿良々木の体を斬った。

曆「竜生、」

竜生「休んでろ、」

俺は、阿良々木からダークアルファスを斬り離れた。

ダークアルファス「馬鹿な、」

竜生「さてと、戦場ヶ原、羽川、海未、穂乃果、ことり」

海未「準備なら出来てます。」

ひたぎ「ええ、」

翼「やるよ」

穂乃果　　ことり「うん！」

(ラビット！タンク！ベストマッチ！)

(ジオウ！)

5人「変身！」

(鋼のムーンサルト！ラビットタンク！ベストマッチ！)

(ライダータイム！仮面ライダージオウ！)

竜生「神龍覚醒！」

ダークアルファス「雑魚どもに負けるかあ！」

クウガ「はあ！」

龍騎「やあ！」

ダークアルファス「ぐう！」

ジオウ　ビルド「ボルテックタイムブレイク！」

ダークアルファス「ぐは！」

アルファス「神龍剣！はあ！」

ダークアルファス「ぐう！」

アルファス「でやあ！」

ダークアルファス「ぐふっ！」

その時、

竜生（この武器は？）

アルファス「時空聖剣ドラゴニュートライザー」

ダークアルファス「認められたのかあいつに！」

アルファス「時空超越神龍覚醒！」

俺は、時空龍騎士アルファスへと変身した。

ダークアルファス「はあ！」

アルファス「ライザークラッシュ！」

ダークアルファス「ぐう！」

アルファス「ドラゴニュートセイバー！」

俺は、ドラゴニュートライザーを剣にし、

ダークアルファス「ダークエンド！」

アルファス「ドラゴニュートクロスエンド！」

2人「はあああああああああああ！」

ほんの少しの差で

アルファス「はあ！」

ダークアルファス「ぐうあああああああああ！」

アルファス「さよなら兄さん、」

ダークアルファス「大きくなったな弟よ。」

そう言って、

ダークアルファスは爆発した。

そして、

竜生「そろそろか、」

海未「そうですね、」

穂乃果「もう少し居たかったな」

ことり「また会えるよきつと」

翼「じゃあね」

ひたぎ「どこかで会いましょ」

暦「またな」

俺達は、元の世界に戻った。

それから、すぐの事
俺と海未の間に新しい命が出来た。
その子の名は

神龍竜海

第3章 ライダーキラー出現編

第23話 受け継がれる絆

竜生「竜海、いるか？」

竜海「何？」

竜生「ちよつと来い。」

竜海「うん、」

俺は、父さんの部屋に入った。

竜生「これをお前に」

それは、ブレスレットとベルトだった

竜海「これは？」

竜生「父さんは、仮面ライダーだった。でも、これからは、お前に受け継いで欲しい。」

竜海「でも、そんなの急に言われても」

竜生「大丈夫だ。アルファス。」

アルファス「戦いの時は、俺がサポートする。」

竜海「はあ、分かったよ。やるよ。」

竜生「ああ、頼んだぞ。」

俺は、父さんの部屋を出た。

竜海「学校に行かないと」

俺は、学校に行った。

【音ノ木坂学院】

竜海「おはよう」

御里「ああ、」

黒凜「うん、」

月菜「おはよう」

俺達は、幼い頃からの幼なじみだ。

そして、3人もブレスレットをしていた。

竜海「お前たちもか、」

御里「竜海もか、」

竜海「ああ、」

その裏では、

「目覚めのときだ。ライダーキラーよ。」

さまざまなライダーの姿をしたキラーが生まれた。

アルファスキラー「1号キラー行け、」

1号キラー「はっ、キラーサイクロン」

1号キラーは、バイクに乗り発進した。

アルファス「キラーだ。それもライダーと同じ力の」

竜海「行くのか？」

アルファス「当たり前だ。体借りるぞ。」

俺は、アルファスに体を預け意識はそこでなくなつた。

1号キラー「来たか。アルファスキラーの偽物。」

アルファス「偽物ね。はあ！」

1号キラー「ライダーパンチ！」

アルファス「効かねえな。」

1号キラー「何！」

アルファス「竜海、行けるか、」

俺の意識は戻り、

竜海（ああ！俺が父さんも母さんも守る！）

アルファス「うおおおおお！」

アルファスは、アルファへと変化した。

アルファ「仮面ライダーアルファ。見参。」

1号キラー「はあああああ！」

アルファ「神龍斬　　閃！」

1号キラー「ぐう！」

アルファ「喰らえ、神龍斬　　神羅！」

1号キラー「ぐうあああああああ！」

ドカーン！

1号キラーは、爆発した。

竜海「はあ、はあ、」

アルファ「よくやった。あと少しで俺も本当の姿になれる。」

竜海「なら、最後まで付き合ってやるよ。」

アルファ「ああ、」

響鬼「よかったですね、竜生」

竜生「ああ、」

クウガ「でも良かったの？ 渡して」

龍騎「そうだよ、」

竜生「戦いは、退いても続く。」

響鬼「竜生、」

竜生「それに、あいつならアルファスを戻せそうだからな。」

第24話 オーバーライド

竜海「これで良かったのかな」

海未「悩んでいるのですか？」

竜海「母さん。」

海未「竜海、お母さんも仮面ライダーとして戦いました。」

竜海「そうなの？」

海未「ええ、お父さんも一緒にね」

竜海「そうなんだ、」

海未「竜海には、御里君たちがいるから大丈夫。」

竜海「うん、」

俺は、御里達の所に行った。

【御里の家】

絵里「竜海君、いらっしやい。」

竜海「お邪魔します。」

俺は、御里の部屋に行った。

御里「おう、来たか。」

竜海「呼んどいて来たかもないだろ。」

御里「それもそうか、」

黒凜「で、呼んだ理由は何？」

御里「敵についてでな」

竜海「仮面ライダーになって戦った時のあの敵か」

月菜「でも、倒したんでしょ？」

竜海「それがそうでも無いみたいなんだ。」

黒凜「えっ？」

御里「ボスがいるんだよ。あの敵の。」

竜海「ああ、」

黒凜「僕達で何とかすると？」

御里「ああ、」

その時、

ガンマ「ライダーキラーだ！しかも4体」

アルファ「行くぞ！」

4人「うん！」

俺達は、バイクに乗り敵の場所へと向かった。

クウガキラー「来たか。」

アルファ「クウガキラー。俺が相手だ」

アギトキラー「雑魚どもが」

ガンマ「お前は俺が相手だ。」

ビルドキラー「」

ベータ「僕が相手だよ！」

Wキラー「さあ、お前の罪を数えろ」

オメガ「罪を数えるのはお前だ。」

クウガキラー「はあ！」

アルファ「でやあ！」

クウガキラー「ぐう！」

アルファ「ドラゴンスマッシュ！」

クウガキラー「ぐう！」

アルファ「ドラゴニユートライザー」

クウガキラー「マイティーキック！」

アルファ「ライザーエンド！」

クウガキラー「ぐう！ああああああ！」

ドカーン！

クウガキラーは、爆発した。

アギトキラー「フレイムフォーム」

ガンマ「オーバーライド！」

俺は、ドラゴンモードへと姿を変えた。

アギトキラー「はあ！」

ガンマ「がア！」

アギトキラー「ぐう！」

ガンマ「終わりだ！聖龍斬！」

アギトキラー「ぐはあ！」

ドカーン！

アギトキラーは、爆発した。

ビルドキラー「はあ！」

Wキラー「でやあ！」

ベータ「はあ！」

オメガ「でやあ！」

ビルドキラー Wキラー「ぐう！」

ベータ「黒龍斬！」

オメガ「光龍斬！」

2人「はあああああああああああ！」

ビルドキラー Wキラー「ぐうあああああああ！」

ドカーン

ビルドキラーとWキラーは爆発した。

竜海「やったな。」

御里「ああ、」

黒凜「まだ出てくるのか、」

月菜「でも、倒そう。」

竜海「そうだな。ボスを倒して平和を取り戻そう。」

3人「うん！」

カブト「御里も頑張ってるわね」

ゴースト「あまり甘やかしたらアカンで、」

カブト「うるさいわね。」

御剣「はあ、まあこれからだよ。」

ウイザード「そうね。」

第25話

暴走と黒龍騎士

黒凜「うう、」

御里「どうかしたか？」

黒凜「いや、少し胸が苦しいんだ。」

御里「大丈夫か？少し休めよ」

黒凜「うん、」

その時だった、

ベータ「黒凜！キラード！」

黒凜「ああ！マシンベータ！」

僕は、バイクに乗り現場に向かった。

御里「黒凜、何も無いといいが、」

黒凜「キラード！そこまでだ！」

ダイケイドキラード「お前か、」

黒凜「お前は！…GO！ベータ！」

俺は、ベータへと変身した。

デイクイドキラー「はあ！」

ベータ「ぐう！」

デイクイドキラー「デイメンションゼロ！」

ベータ「ドラゴンクライシス！」

2人の攻撃の間に閃光がはしった。

ベータ「ぐう！」

デイクイドキラー「ぐふっ！」

ベータ「黒凜、お前の全て俺によこせ。」

黒凜（うん！）

僕は、ベータに意識を流し込んだ。

しかし、

ベータ「ぐうあああああああああああ！」

ベータは、僕は、暴走した。

ガンマ「ベータ！」

デイクイドキラー「一旦引くか、」

デイクイドキラーは、その場から消えた。

ベータ（暴走）「はあ！」

ガンマ「ぐう！」

ベータ（暴走）「でやあ！」

ガンマ「ぐはあ！」

ベータ（暴走）「ドラゴンデスファイナ！」

ガンマ「！」

オメガ「光龍斬！」

ベータ（暴走）「ぐはあ！」

僕の暴走は、止まった。

御里は、腕の骨が折れていた。

黒凜「僕は、なんで、」

御里「黒凜。そう落ち込むな。」

黒凜「でも！」

御里「俺の腕位どうにでもなるから」

黒凜「御里、」

その時、

ベータ「黒凜！さっきのキラード！」

御里「行つてこい」

黒凜「…ああ！」

僕は、バイクに乗り向かった。

デイケイドキラー「またお前か、」

黒凜「僕は、もうあの時の僕じゃない！」

デイケイドキラー「はあ！」

黒凜「GO！ベータ！」

ベータ「はあ！」

デイケイドキラー「ぐう！」

ベータ「でやあ！」

デイケイドキラー「くう！」

ベータ「黒龍覚醒！」

俺は、黒龍騎士ベータへと姿を変えた。

デイケイドキラー「はあ！」

ベータ「無駄だ。はあ！」

俺は、念力でデイクイドキラーを吹き飛ばした。

デイクイドキラー「ぐう！」

ベータ「デイクイドキラー。覚悟はいいな、」

デイクイドキラー「やめ、」

ベータ「黒龍斬！疾風烈火！」

デイクイドキラー「ぐうあああああああ！」

ドカーン！

デイクイドキラーは、爆発した。

黒凜「これが、黒龍騎士の力。新しい力。」

オーズ「よかったね」

黒闇「うん、」

キバ「でも、まだ安心は、出来ないわよ、」

アギト「そうだよ、」

黒闇「まあ、これから頑張ってくれたらいいだろ、」

第26話

戦士の信念

月菜「竜海、」

竜海「どうした？」

月菜「竜海は、怖くないの？」

竜海「怖いさ、けど月菜の事は死んでも守るから」

月菜「うん、」

でも、私は、

もう戦いたくない

そう思っていた。

オメガ「竜海！月菜！キラード！」

竜海「ああ！」

月菜「うん、」

バイクに乗り現場に向かった。

シンキラー「はあ！」

ZOキラー「はあ！」

Jキラー「はあ！」

アルファス「そこまでだ！」

オメガ「倒す。」

シンキラー「倒せるかな？」

アルファス「何、」

3人「合体」

ゾンジス「はあ！」

アルファス「ぐう！」

オメガ「アルファス！」

アルファスは、強制解除された

竜海「くそ、」

オメガ「はあ！」

ゾンジス「でやあ！」

オメガ「ぐう！」

ゾンジス「スパインカッター！」

オメガ「流星ドラゴンストライク！」

「だけど、パワーの差で負けた。」

ゾンジス「弱いな。」

ゾンジスは消えた

月菜「」

竜海「月菜！月菜！」

月菜「うう、」

竜海「よかった。」

月菜「私は、」

竜海「気を失ってたんだよ。」

月菜「そうなんだ、」

私は、怖くなった。

また、倒されたらと思うと動けなくなった。

竜生「竜海、」

竜海「お父さん何？」

竜生「これを月菜ちゃんに渡してくれ」

竜海「出来たんだ。うん分かったよ。」

その時、

アルファス「竜海！ゾンジスだ！」

竜海「ああ！」

俺は、現場に向かった。

ゾンジス「はあ！」

オメガ「ぐう！」

オメガは、月菜へと戻った。

アルファス「月菜！」

月菜「竜海、」

アルファス「これが出来た。使え。」

月菜「うん、」

ゾンジス「何をしようと無駄だ。」

月菜「無駄じゃない！これがもう一つの力だ！」

ボトルバキーン！

グリスクローズ！

Are you ready?

月菜「変身！」

極熱心火！

グリスクローズ！

グリスクローズ「行くぞゾンジス、」

ゾンジス「はあ！」

グリスクローズ「はあ！」

ゾンジス「ぐう！」

グリスクローズ「シングルバーン！はあ！」

ゾンジス「ぐはあ！」

グリスクローズ「グレイシャルボルケニック！」

ゾンジス「タイムブ레이크！」

グリスクローズ「はあああああああああああああ！」

ゾンジス「はあああああああ！」

グリスクローズ「終わりだあああああああ！」

ゾンジス「ぐうあああああああ！」

ゾンジス、

シンキラー、ZOKキラー、JKキラーは爆発した。

竜海「やったな。」

月菜「うん、」

竜海「なあ」

月菜「何？」

竜海「俺と付き合わないか？」

月菜「!…うん」

竜海「ふふ。」

月菜「ふふ。」

月影「よくやった。」

穂乃果「さすが、私達の子どもだね。」

月影「ああ、」

穂乃果「私達も帰ろうか」

月影「そうだな。」

第27話

アルファスキラ

竜海「雨か」

アルファス「こんな時でも、キラは出てくるからな」

竜海「だよなあ。」

俺は、徐ろに立ち上がり、

竜海「出かけてくる。」

海未「気をつけるのですよ。」

竜海「はあい、」

俺は出かけた。

竜海「はあ、ゲーセンにでも行って帰るか。」

月菜「あれ？竜海？」

竜海「月菜。」

月菜「何してるの？」

竜海「ゲーセンにでも行こうかなと」

月菜「はあ、好きだね。」

竜海「面白いからな。」

月菜「そう。たまには、一緒に遊んでね。」

そう言つて月菜は、行つてしまった。

「ゲーセン」

竜海「おら！おら！」

俺は、銃ゲーをしていた。

竜海「よし。あと1ステージ。」

客「おい、あれ」

客「ほんとだ。」

俺はゲーセンのゲームを全て全クリしている

そんなんで名前が知れている。

竜海「ふう、クリア。」

俺は、ゲーセンを出た。

その帰路

??? 「お前がアルファスだな。」

竜海 「誰だ！」

??? 「ふふ。」

竜海 「な！」

そこに居たのは、アルファスだった。

竜海 「アルファス、」

アルファスキラー 「アルファスキラーだ。」

アルファス 「逃げろ竜海！」

竜海 「いや、ここで倒す。」

アルファスキラー 「」

竜海 「GO！アルファス！」

俺は、アルファスに変身した。

アルファス 「はあ！」

アルファスキラー 「その程度のものか、」

アルファス 「何！」

アルファスキラー 「はあ！」

アルファス 「ぐはあ！」

俺は、殴り飛ばされた。

アルファスキラー「お前は、俺に勝てない。」

アルファス「黙れ！」

アルファスキラー「ドラゴンストライク！」

アルファス「ドラゴンストライク！」

アルファスとアルファスキラーの間に光が走った

竜海「くっ！」

俺は、変身を強制解除していた。

アルファスキラー「これで終わりだ。はあ！」

竜海「ぐはあ！」

俺は、アルファスキラーに剣で刺された。

ガンマ「ここにキラーが、」

ベータ「はい、」

オメガ「それより、竜海は、」

ガンマ「確かにいないな。」

アルファスキラー「こいつの事か？」

3人「！」

アルファスキラー「あっけなげく逝ったよ。」

オメガ「そんな、竜海！竜海！」

竜海が目覚めることは無かった。

アルファスキラーは、いなくなっていた。

月菜「ううああああ！」

御里「」

黒凜「」

そこには、雨と月菜の泣き叫ぶ声だけが響いていた。

海未「竜海、」

私は、ただ変わり果てた姿を見ることしか出来なかった。

第4章

SAO・ライダーキラー決着編

第28話

SAO

竜海「」

アルファス「竜海、起きろ！」

竜海「ああ、」

俺が起きるとそこには、

竜海「ここどこだよ。なんか服も違うし、」

アルファス「アルファスキラーの影響だろ」

竜海「あの時の攻撃か……」

アルファス「ああ、」

その時だった、

???「あの1人ですか？」

竜海「ああ、」

アスナ「アスナと言います。」

竜海「リュウだ」

俺はリュウと名乗ることにした。

リュウ（竜海）「で、何か」

アスナ「いえ、剣の使い方を教えてもらいたくて」

リュウ「生憎、今日入ったから」

アスナ「そうですか。ありがとうございます。」

そう言つて、アスナは去つていった。

リュウ「なんだったんだ。」

アルファス「さあな」

リュウ「それよりなんなんだこの世界」

??? 「SAO」

リュウ「！」

キリト「俺はキリト」

リュウ「リュウだ。」

すると、

「なんだアレ」

その方向を見ると、

WARNING

リュウ「なんだ」

キリト「」

すると、

アルファスキラー「久しぶりだな。竜海。アルファス。」

リュウ「アルファスキラー。」

アルファスキラー「このゲームからは出られない。」

リュウ「何？」

アルファスキラー「100層で待っている」

アルファスキラーはそれだけを残し消えた

そして、全員の手に鏡が現れ、

キリト「！」

リュウ「これは、」

キリト「うう、」

俺以外は、全員リアル顔になっていた。

アルファス「奴の仕業だ。」

リュウ「だろうな。」

アルファス「俺たちが100層まで行かないと」

リユウ「多数の犠牲者が出るからな。」

俺は、足早に次の町へと向かった。

それから3ヶ月程

俺は、第30層で狩りをしていた。

リユウ「はあ！」

パキン

ラグーラビットの肉を手に入れた。

それを持って、50層に向かった。

リユウ「キリト、肉手に入れたぞ。」

キリト「そこらで売られてるのか？」

リユウ「これだ。」

俺は、ラグーラビットの肉を見せた。

キリト「おお！レア食材！」

リユウ「でも、ここには料理できるのもいないし」

キリト「なら紹介してやるよ。」

リュウ「誰を？」

すると、

アスナ「キリト君来たけど、」

キリト「おお、アスナ。実はな」

リュウ「アスナ……」

キリト「ああ、紹介するよ。こっちはアスナ。」

アスナ「初めましてアスナです。」

リュウ「リュウだ。」

アスナ「！」

キリト「アスナ？リュウ？」

アスナ「始めた時に声をかけた」

リュウ「ああ、」

キリト「それより、これ調理出来ないか？」

アスナ「う、うんってラグーラビット！」

リュウ「今朝とって来た。」

アスナ「ここだとあれだから私の家でしましょう。」

俺とキリトはアスナについてアスナの家がある

61層に行った。

それから、2時間後

リュウ「まともな飯が食えた。」

キリト「だな。」

アスナ「そんなにも食べてないの？」

リュウ「町の不味い飯ぐらいしか」

アスナ「ふうん。2人ならご馳走してもいいわよ。」

2人「マジで！」

アスナ「うん、」

その後、色々話してからその日は帰った。

第29話 黒と白の騎士

リュウ「この層のボス？」

キリト「ああ、青眼の悪魔って言われてるらしい。」

アスナ「でも、ルートが、」

リュウ「それで手伝えと、」

アスナ「うん。」

リュウ「仕方ないか、行くぞ、」

キリト「いいのか？」

リュウ「俺達は仲間だ。手伝わないと行けないだろ？」

キリト「ありがとな」

リュウ「おう。」

俺とキリトとアスナは、青眼の悪魔と呼ばれるボス攻略を始める事にした。だが、この後彼らは地獄を見ることになる。

リュウ「ここか」

キリト「ああ、」

リュウ「行こう」

2人「うん、」

俺達は、迷宮区へと入った。

その頃

海未「竜海。」

海未は、竜海の手を握っていた。

竜生「大丈夫。絶対に無事だから、」

海未「はい」

竜生「1回帰ってくるから」

海未「はい、」

俺は竜海の病室を後にした。

そして、

竜生「もう一度やるぞ。アルファス、」

第74層

リュウ「はあ！」

キリト「凄いな、」

アスナ「うん、」

俺は1人でほとんどの敵を倒した。

リュウ「ここがボス部屋か」

キリト「ああ、」

アスナ「見るだけにしておかない？」

リュウ「いや、攻略する。」

俺は、ボス部屋の扉を開けた。

リュウ「暗いな。」

すると、

ボウ、

火が着き始め、

真ん中に

マツハキラー「ふっ、」

リュウ「そういうことか、グリーンムズアイズと違ってたが」

キリト「違うのか、」

アスナ「まさか、最初の?」

リュウ「あいつの仕業で間違いないみたいだ。」

マツハキラー「はあ!」

リュウ「くっ、」

キリト「はあ!」

アスナ「はあ!」

リュウ「やめろ!」

マツハキラー「はあ!」

2人「ぐう!」

リュウ「よくも!」

マツハキラー「悔しかったらかかってこい!」

リュウ「な、アルファス、」

アルファス(竜生)「大丈夫か? 竜海。」

リュウ「ああ、GO! アルファス!」

俺は、アルファスに変身した。

キリト「あれがリュウ。」

アスナ「もう一人は」

キリト「竜生。」

アルファス（竜生）「ドラゴンスラッシュ！」

マツハキラー「ぐう！」

アルファス（竜海）「ドラゴンクラッシュ！」

マツハキラー「ぐはう！」

アルファス（竜生）「竜海。お前がトドメをさせ」

アルファス（竜海）「ああ、キリト、アスナ、」

キリト「ああ！」

アスナ「うん！」

マツハキラー「はあ！」

2人「はあ！」

アルファス（竜海）「ダークシャインアルファス」

2人「今だ！」

アルファス（DS）「ダークシャインドラゴンエンド！」

マツハキラー「ぐうあああああああ！」

ドカーン！

マツハキラーは、爆発した。

リュウ「父さん。」

竜生「向こうで待ってる。絶対クリアしろ。」

リュウ「ああ！」

父さんは、現実へと戻って行った。

アルファスキラー「ここからが本番だ。」

第30話 ジオウキラー

とある日

俺とキリトとアスナは、ヒースクリフに呼ばれた。

ヒースクリフ「75層に行った偵察隊がいなくなった。」

リュウ「ほんとか」

ヒースクリフ「現状を言くとボス部屋のボスが」

リュウ「変わってるんだろ？」

ヒースクリフ「ああ、」

そう、ここまで来たのに1層から74層まで全てのボスがライダーキラーに変わって
いた。

そこで俺は嫌な予感をしていた。

まだそれが現実とも知らずに

キリト「で、招集して次の攻略をする。」

ヒースクリフ「その通りだ。ボス部屋まではもうクリアしてある。」

リュウ「で、行くのは？」

ヒースクリフ「明日の朝8時」

リュウ「ああ、」

それから、部屋を出て空いてる部屋で話をした。

リュウ「もしかしたら、この層のボスは一筋縄で行かない気がする。」

キリト「なんでだ？」

リュウ「俺はライダーキラーの特性を知っている。」

アスナ「ならそれを街で公開したら、」

リュウ「ダメだ。あれを公開するとこのゲームは本当の地獄となる。」

キリト「リュウの言う通りだアスナ。」

リュウ「それと今回の攻略からアスナは外れてくれ。」

アスナ「なんで！」

リュウ「あまりにもリスクが大きいからだ。」

キリト「リュウ、」

アスナ「私は行く。血盟騎士団の名に置いても」

リュウ「そこまで言うなら止めはしない。」

そう言い残し俺は部屋を出ていった。

（翌日）

午前8時

ヒースクリフ「よく集まってくれた。」

そこには、何十人とプレイヤーがいた。

ヒースクリフ「このゲームのクリアの為に行くぞ！」

「おおおおおー！」

リュウ「アルファス。」

アルファス「ああ、何かあればな」

リュウ「頼んだ。」

そして、ボス部屋の門まで移動し門を開けた。

キリト「いない、」

リュウ「違う！」

「スレスレ撃ちー！」

避けれた者もいたが

そのまま撃ち抜かれる人もいた。

リュウ「ジオウキラー」

ジオウキラー「アルファス。」

ヒースクリフ「突撃！」

「うおおお！」

リュウ「待て！」

だがその言葉を聞かなかったものはジオウキラーに斬られ死んでいった。

リュウ「GO！アルファス！」

ジオウキラー「はあ！」

キン！

ドラゴンセイバーを寸前で出し受け止めた。

ジオウキラー「なら、」（クウガ！）

アルファス「クウガドラゴン！アーマーオン！」

俺とジオウキラーは、クウガの力を使った。

ジオウキラー「はあ！」

アルファス「ふっ、はあ！でやあ！」

ジオウキラー「ぐう！」

俺は殴りからの蹴りを入れその隙に

アルファス「今だ！」

キリト アスナ「はあああ！」

ヒースクリフ「はあ！」

残りのプレイヤーも攻撃に入った。

ジオウキラー「ぐう！まさかこれまでとは、」

アルファス「これで終わりだ、」（カードオン）

ジオウキラーから少し距離をとって走り出し

アルファス「全員離れろ！」

ジオウキラー「まさか！」

アルファス「はあ！」

ジオウキラー「ぐふ！」

その胸には、グロンギの文字がついていた。

ジオウキラー「ぐうあああああ!!」

ドカーン！

アルファス「はあ、はあ、」

「75層のボスを簡単に倒すとはやはり違うな。」

アルファス「もうそんな姿じゃなくていいんじゃないか？茅場晶彦いやアルファスキ

ラー」

ヒースクリフ「バレていたのか、」

アルファス「ついさつき確信がついてな。」

俺の嫌な予感はこちらだった。

ヒースクリフ「なら決着と行こう。アルファス。」

アルファス「望むところだ！」

第4章最終話 力

ヒースクリフ「GOアルファスキラー」

アルファス「やはりな」

ヒースクリフは、アルファスキラーへと変わった。

アルファス「はあ！」

アルファスキラー「ふん！」

ガキン！

アルファス「何！」

アルファスキラー「はあ！」

ドゴン！

アルファス「がは！」

アルファスキラー「所詮その程度だったんだ。」

俺は、殴られた衝撃で変身を強制解除した。

リュウ「ぐう、」

アルファスキラー「死ぬがいい」

リュウ「まだ、だあああ！」

アルファスキラー「何！ぐは！」

俺の体は、光に覆われた。

アルファス「竜海。これを使え。」

竜海「これって」

そこには、もうひとつの変身ブレスがあつた。

アルファス「俺と一緒に」

竜海「ああ、倒そう！」

俺はブレスを手につけ

アルファスキラー「何が起こったんだ。」

リュウ「奇跡が起こったんだよ」

アルファス「行くぞ、竜海。」

リュウ「ああ、GO！アルファス！」

アルファス「神龍覚醒」

俺は、仮面ライダーアルファスに

アルファスは、神龍騎士アルファスへと変身した。

アルファスキラー「そんな事有り得るはずが」

アルファス（竜海）「はあ！」

ズバツ！

アルファスキラー「ぐは！」

アルファス「せや！」

ズバン！

アルファスキラー「ぐう！」

アルファス（竜海）「今の俺達を越える事は」

アルファス「出来ない」

アルファスキラー「黙れエエエ工！」

2人「神龍Wファイナリー！」

アルファスキラー「デスドラゴンクライシス！」

2人「はあああああああ！」

アルファスキラー「ぐうううううあああああ！」

アルファスキラーは、弾き飛ばされた。

アルファス（竜海）「俺達の勝利だ」

「アルファスキラー」その力に溺れるがいい。」
「パリン！」

アルファスキラーは倒れ

ヒースクリフ（茅場晶彦）は死んだ。

キリト「お前、」

リュウ「自分の世界に戻る時が来たんだ。」

アスナ「また会えるの？」

リュウ「ああ、最後に俺は神龍竜海。」

キリト「桐々谷和人だ。」

アスナ「結城明日奈です。」

リュウ「向こうで会おう。」

2人「ああ（うん）」

リュウ「じゃあな」

俺は、現実世界へと戻った。

「現実世界」

竜海「ううん、んっ、」

俺が目を覚ますと

海未「竜海。」

竜生「終わったんだな。」

竜海「父さん。母さん。」

海未「よかった。もう2年も寝たきりだったから。」

竜海「そうなんだ。ぐう、」

俺は立ち上がり、

竜海「あいつらに会わないと、」

俺は、キリトとアスナのところに行つた。

2人も無事に戻つて来ていた。

俺は特例措置として音ノ木坂を卒業していた事になり

これからの事はまたゆつくりと考える事にした。

しかし

新たなる脅威がすぐそこまで迫っていた。

???????

「準備が出来ました」

「そうか、この星はもう時期我のものに」

最終章 不滅の戦士編

第32話 子から親へ

竜海「父さん。少しいいかな。」

竜生「ああ、」

俺は、竜海に呼ばれ嫌な思いをしていた。

竜海「これ。」

そこには、アルファスに変身する為のブレスレットがあった。

竜生「決めたのか、」

竜海「うん。アルファスキラーとの戦いで分かったんだ。この力は父さんが持っていた方がいいって。」

竜生「そうか。ならまた俺がやる事にしよう。」

竜海「陰ながら支えるから。」

俺は、その言葉を聞き早速動いた。

竜生「なら、新しいカードを作ってくれるか？」

竜海「うん。」

竜生「これがそのカードの図だ。」

竜海「頑張つて見るよ。」

俺はその言葉を聞いて竜海の部屋をあとにした。

〔居間〕

海未「よかつたのですか？」

竜生「ああ、それにまた海未達にも手伝つて貰うから。」

海未「あなたの事ですからね。」

竜生「ああ、」

そんな事を話していると、

バン！

穂乃果「竜生君！海未ちゃん！」

竜生「騒がしいやつだな。」

海未「なんですか？慌てて？」

穂乃果「なんでまたアークルが出てきたの!？」

竜生「俺がアルファスの力をまた手にしたからだ。」

穂乃果「えっ、」

そう。穂乃果や海未は、一時は変身できていたがその後急に変身アイテムはなくなり平穏な日々を送っていた。

だが、俺が力を戻してもらった事により、

再びアークルや音叉が出てきたのだ。

竜生「これからの戦いはきつくなるだろうな。」

海未「そうですか、」

穂乃果「でも、やるしかないよね？」

竜生「当たり前だ。」

その時だった。

アルファス「竜生！キラーだ！」

竜生「分かった！海未！穂乃果！行くぞ！」

2人「うん（はい）！」

俺達はバイクで現場に向かった。

???「これでこの街も終わりだ！」

竜生「そこまでキラー！」

??? 「誰があんな弱いものと一緒だと?」

竜生 「どういう意味だ。」

ダークキラーナイト 「俺は、ダークキラー。」

アルファス 「何!」

竜生 「知っているのか?」

アルファス 「ダークキラーはキラーの幹部に当たる。」

竜生 「でも、倒すだけだ! GO! アルファス!」

穂乃果 海未 「変身!」

ダークキラーナイト 「はあ!」

アルファス 「ドラゴンセイバー! はあ!」

キン!

アルファス 「ぐう、穂乃果!」

クウガ 「うん! カラミティタイタン! はあ!」

ダークキラーナイト 「ぐう、やるな、」

響鬼紅 「爆裂真紅の型! はあ! でや!」

ダークキラーナイト 「ぐう、ぐは!」

アルファス 「ドラゴンキック、」

クウガ「マイティーキック、」

ダークキラナーナイト「こんな簡単にやられるかあ！」

3人「はああああああ！」

ダークキラナーナイト「グアアアアア！」

ドカーン！

アルファス「力が違うんだよ。」

???「あれは単なる雑魚だよ。」

アルファス「誰だ！」

その火の中からダークキラナーのボスは現れた。

ダークサタン「俺はダークサタン。」

アルファス「久しぶりだな。」

ダークサタン「星をこわされた思いはどうだったかな？」

アルファス「悔しかったさ。自分に力がなかったことに」

ダークサタン「どうせ、この星も同じ運命を辿る。」

アルファス「させない。絶対にな。」

ダークサタン「それとこっちにも右腕がいてね」

そこに現れたのは、

クウガ「えっ、」

響鬼「あなたは、そんな、」

???「久しぶりね。穂乃果？海未？」

クウガ「零奈ちゃん。」

そう呼ばれた彼女は、

零奈「まだどこかで遊びましょ。」

とだけ言い残しダークサタンとともに姿を消した。

これがキラーと俺たちの最後の戦いの開戦だった。

第33話 終焉の始まり

竜生「ダークサタン。なあ海未。」

海未「はい、零奈の事ですね。」

竜生「ああ。」

海未「零奈は、私達の幼なじみでした。一緒に遊び音ノ木坂学院に入りました。」

海未は、少し悲しげな表情になり

海未「ある時でした。零奈は、顔に傷を負いました。その顔に傷をつけた犯人は逮捕されました。しかし、」

竜生「その子は、いじめを受け始めた。」

海未「はい、それから3学期の始まる時自殺をしました。場所は、私達の教室でした。」

竜生「そうだったのか、嫌な事思い出させたな。」

海未「いいえ、いざれ話そうとは思っていませんでしたから。」

俺が、外に出た時だった。

アルファス「ダークキラーだ！絵里達が応戦中だ！」

竜生「ああ。わかった！」

俺と海未は、変身しバイクで向かった。

ダークキラーゲルゲ「はあ！」

カブト「ぐう！」

ゴースト「ぐは！」

ダークキラーギル「おらア！」

ウイザード「ぐああ！」

キバ「ぐふっ！」

ダークキラーガオウ「ファイナルブレイク！」

オーズ「がア！」

アギト「げう！」

クウガ「皆！」

アルファス「お前ら、」

響鬼「行きますよ。」

ダークキラーガオウ「こいつらの仲間か。お前ら！」

2人「はっ！」

ダークキラーガオウ「やるぞ、」

その時でした。

??? 「ディメンションキック！」

??? 「ボルテックファイニッシュ！」

3体 「ぐう、」

ダークキラークオウ 「何もんだ！」

ディケイド 「久しぶりだね。μ'sの皆さん。」

クウガ 「もしかして千歌ちゃん。」

ディケイド 「うん。」

アルファス 「羽川に戦場ヶ原か。」

ビルド 「うん。」

ジオウ 「久しぶりね。」

アルファス 「ああ。」

ダークキラークゲルゲ 「増えたところで」

アルファス 「やってみるか？」

ダークキラークギル 「望むところだ！」

クウガ 「皆やろう！」

ダークキラークオウ 「倒してやる。」

クウガ「はあ！」

ダークキラージル「そんなもん、」

アギト「ハルバートブレイク！」

ファイズ（カイザ）「ゴルドクリムゾン！」

ダークキラージル「ぐう！」

ブレイド

響鬼

カブト「ロイヤル音撃サイクロン！」

ダークキラージル「ぐは！」

ダークキラージル「来い！」

電王 キバ「ダークネスライナーキック！」

ダークキラージル「ふん！」

キバ「今よ！」

デイケイド W「ディメンションWゼロ！」

ダークキラージル「ぐう」

オーズ フォーゼ「ライダースキャニングブレイク！」

ダークキラージル「ぐふっ！」

ウィザード「キックストライク！」

鎧武「薙刀無双スライサー！」

ダークキラーゲルゲ「ぐは！」

ダークキラーガオウ「ファイナルブレイク！」

アルファス「はあ！」

俺は攻撃を防いだ。

アルファス「今だ！」

ドライブ「スピードロップ！」

ゴースト「オメガドライブ！」

2人「はあ！」

ダークキラーガオウ「ぐう！」

エグゼイド　ビルド　ジオウ

「マイティーボルテックブレーク！」

ダークキラーガオウ「ぐはあ！」

3体「はあ、はあ、」

アルファス「終わりだ！神龍斬

極神滅羅！」

3体「ぐああああああ！」

ドカーン！

3体は爆発した。

俺達は変身を解除した。

竜生「そう言えばことりは、」

海未「確かにいませんね。」

絵里「そうね。」

零奈「ことり」

ことり「なんで、零奈ちゃんが、」

零奈「私と一緒に来ない？」

ことり「嫌、」

零奈「なら死んで？」

ことり「うう！」

私は刺された。

零奈「あなたにだけ教えてあげる。私の正体」

すると零奈ちゃんは、怪物へと姿を変えた。

ことり「零奈…ちゃん…」

竜生「ことり！」

海未「ダークサタン！」

ダークサタン「もう来たの？面白くない。」

竜生「その口調。結城零奈だな。」

ダークサタン「そうだよ！私がダークサタンの正体だよ！」

竜生「倒してやる！」

ダークサタン「無駄だよ。これが終焉への1ページだ。」

すると、街が爆発し始める。

竜生「きさまあ！」

ダークサタン「ハハハハハハハハハハハハハハハハ！」

第34話 アルファス対ダークサタン

ピッ、ピッ、

俺と海未と穂乃果はことりの病室で座っていた。

ことり「」

海未「まだ目覚めませんね。」

竜生「かなり刺されてたからな。」

穂乃果「大丈夫だよね?」

竜生「当たり前だ。今は信じて待とう。」

そう言つて各々眠りについた。

く翌朝く

ことり「ううん、あれ?ここは?」

海未「ううん、つてことり!」

ことり「!…驚かさないですよ。」

海未「昨日刺されたので心配で」

ことり「もう大丈夫だよ。竜生君のおかげもあるし。」

海未「なら良かったです。それより竜生は、」

ことり「確かに居ないね。」

その頃、

竜生「竜海。調子はどうだ。」

竜海「もうすぐだけど、中々」

竜生「わかった。無理させて済まないな。」

竜海「ううん。父さんのためだから。」

竜生「ああ。」

俺は竜海の部屋を出て、外を見に行った。

爆発は一時的に止まったが次はどこが爆破されるか分からない。

俺は、みんなと手分けして警戒に当たっていた。

竜生「心配はないようだな。」

と思つた瞬間だった、

ずずずずずずずずずず！

地鳴りとともにサタン城が出てきた。

竜生「ダークサタン。絶対に許さん。」

希「一人で行く気なん？」

竜生「あいつと互角にやり会えるのは俺だけだから。」

希「ならこれを持っていき。」

その手には、写真があつた。

竜生「皆とのか。」

希「絶対に戻つてくるんやで。」

竜生「ああ。」

俺は変身しバイクに乗りサタン城に突入した。

「サタン城？」

そこにダークキラーの影はなかった。

アルファス「もぬけの殻だな。」

すると

ビュン！

ある方角から何か放たれた音だった。

俺はすぐに避けその方向を見ると、

ダークサタン「何しに来たの？」

アルファス「お前を止めるために来た。」

ダークサタン「1人で？」

アルファス「ああ。」

ダークサタン「でも私の計画は抜かりなどない。」

すると爆発が起こった。

アルファス「またか。」

ダークサタン「ならこっちも始めよう。」

俺は神龍剣を

ダークサタンはサタンサーベルを

お互い構えた。

2人「はああああああ！」

キン！カン！

アルファス「ぐう、」

ダークサタン「やるな、だが！」

ズバン！

アルファス「ぐはっ！」

俺の体はサタンサーベルによって斬られた。

そこからは、血が出ていた。

アルファス「まだ、だ、」

ダークサタン「なら死ね、はあ！」

竜海「父さん！これを！」

アルファス「！…これは！」

竜海「2つのアルファスになれるカードだよ。」

アルファス「2つのアルファス」

竜海「カードの名前は、コスモギヤラクシー！」

ダークサタン「邪魔するな！」

ダークサタンは、竜海に向けて剣を投げた。

しかし、

装甲響鬼「はあ！」

海未によって防がれた。

装甲響鬼「息子には触れさせません。」

竜海「母さん。」

そしてみんなもやってきた。

クウガ（アルティメット）「ダークキラーは、全滅させたよ。」

アルファス「ああ！」

ダークサタン「どこまでも私の邪魔をするなあああ！」

アルファス「使わせてもらうぞ。このカード！」

「コスモ！ギャラクシー！」

アルファス「はあ！」

するともう一つの俺の体が現れ、

1つはコスモ

1つはギャラクシー

宇宙と銀河2つのアルファスになった。

アルファス（コスモ）「さあ、」

アルファス（ギャラクシー）「決着をつけよう。」

第35話（最終回） 不滅の戦士

アルファス（コスモ）「はあ！」

アルファス（ギヤラクシー）「でや！」

ダークサタン「効かない！はあ！」

2人「ぐは！」

俺は、変身を解除された。

ダークサタン「私の邪魔をしたからだ、」

竜生「ぐう、ふう、」

ダークサタン「ぐう、はあ、はあ、」

竜生「力の制御が取れていない。このままだと」

その時には、遅かった、

ダークサタン「うあああああ！」

ダークサタンは、城を壊しドラゴンの姿へと変えた。

竜生「遅かったか。」

アルファス「行くぞ！」

竜生「ああ！GO！アルファス！」

アルファス「はあ！」

ダークサタン「ぐう！ガア！」

アルファス「ぐう！重い、」

穂乃果「えっ、これって」

アルファス「！」

穂乃果達はベルトの放つ光におおわれた。

???「ありがとう。君達のおかげで復活することが出来たよ。」

穂乃果「あなたは、」

雄介「五代雄介。仮面ライダーダークウガ。」

穂乃果「！」

雄介「皆！アルファスを助けるぞ！」

20人「ああ！」

全員「変身！」

そして、俺の前にライダー達が集結した。

アルファス「先輩方、」

クウガ（アルティメット）「皆の笑顔のために」

アルファス「行きましょう。」

W（エクストリーム）「さあ、お前の罪を数えろ！」

ダークサタン「ぐあああああああああ！」

アギト（シャイニング）「シャイニングライダーキック！」

龍騎（サバイブ）「ドラゴンライダーキック！」

ファイズ（ブラスタ）「クリムゾンスマッシュ！」

3人「はあああああああ！」

ダークサタン「、！」

ブレイド（キング）「ロイヤルストレートフラッシュ！」

装甲響鬼「音撃刃 鬼神覚声！」

カブト（ハイパー）「マキシマムハイパーサイクロン！」

ダークサタン「ぐう！」

電王（ライナー）「電車斬り！」

キバ（エンペラー）「ファイナルザンバット斬！」

ディケイド（コンプリート）「ディメンションキック！」

ダークサタン「ぐあ！」

ダークサタンは、攻撃を受け続けた事により弱っていた。

W（エクストリーム）「Wプリズムエクストリーム！」

オーズ（タジヤドル）「ロストブレイズ！」

フォーゼ（コズミック）「ライダー超銀河フィニッシュ！」

ダークサタン「ぐふ！」

ウイザード（インフィニティー）「ドラゴンシャイニング！」

鎧武（極）「極スカッシュ！」

ドライブ（トライドロロン）「トライドロップ！」

ダークサタン「ぐは！」

ゴースト（ムゲン）「ゴットオメガドライブ！」

エグゼイド（ムテキ）「クリティカルスパッキング！」

ビルド（ジーニアス）「ジーニアスフィニッシュ！」

ダークサタン「ぐあ！」

ジオウ（オーマジオウ）「逢魔時王必殺撃！」

ダークサタン「ぐああああああああ！」

ドラゴンになっていたダークサタンは、通常体に戻っていた。

ダークサタン「まだまだ！ダークドラゴンフィニッシュ！」

アルファス「ドラゴンフィニッシュ！はあ！」

俺とダークサタンは、空中でキックがぶつかった。

そして、

ドカーン！

爆発した。

ダークサタンは零奈とともに消え、俺は地上に降り立った。

クウガ「やったな。」

アルファス「はい、」

海未「竜生！」

竜生「大丈夫だよ。」

俺は、アルファスと分離されていた。

アルファス「俺は、また旅立つ。またあうひまで」

アルファスは、他のライダーやA q o u r s、羽川と戦場ヶ原とともに消えた。

「竜生「また会う日まで。」

俺は、普通の暮らしに戻った。

特別編 平穩

アルファス、今はどんな星を助けてる。

俺達は、お前や他のライダーたちがいなくなつてからは平穩な日々を送つていよ。

俺と海未と竜海は、

竜生「星でも見に行くか？」

海未「いいですね！」

竜海「行きたい！」

と山や海に行つたりしている。

それに、

竜生「この歴史上の人物分かる人、」

海未「ここで展開をした公式に代入するのです、」

俺は小学校で社会を

海未は中学校で数学を教えているよ。

元々休職してたからと言うのもあるから。

時々自分がお前と戦つた話もしてよ。

竜海は、今度教員になるために大学に入るよ。
応援してやってくれ。

あとは他のメンバーだな。

穂乃果は、自分の店を継いでるよ。

驚いたのは、月影と結婚して2児の母になってた事だな。

上は、月菜。下は穂影らしい。

ことりは、声優として頑張ってるよ。

1年目から抜擢されて今は色んなアニメのキャラクターを演じているよ。
そこで知り合った彼氏がいるみたいだけどな。

花陽は、海外で仕事してるみたいだ。

情報がなくて詳しいことはわかってないが。

凛は、黒闇と結婚したよ。

子どもは、黒凛（こくりん）だけで、陸上競技の選手を目指してる。

凛は、プロの陸上選手でそれを支える黒闇は、専業主夫って所か。

真姫は、病院で看護婦をしているよ。

俺も厄介になったことがあったからな。

だいぶ角も取れて丸くなってるよ。

にこは、相変わらず妹達の面倒を見ているよ。

でもその傍ら、アイドルとしても活躍しててな、

テレビで見ない日はないな。

希は、ゴルフを始めたらしくて。

しかもプロ顔負けのスコアを叩いているよ。

アマチュアの大会で2位と大差で優勝もしたんだ。

絵里は、御剣と暮らしているよ。

お墓の中だな。

2人とも癌があつてな。先に絵里が亡くなって、その1ヶ月後に御剣が亡くなった

よ。

御里は、希と暮らしているよ。

皆の今を教えただけなんだけどな。

皆と会うのは叶わないけど、

またいつか会おう。

海未「竜生、」

竜生「なんだ？」

海未「ボーっとしてましたが、」

竜生「アルファスのことを思ってたただけだよ。」

海未「そうですね、あの戦いから1年ですもんね。」

竜生「ああ、絵里達の事もあったから」

海未「はい、」

そう言つて暫く沈黙が続いた。

すると

竜海「ねえ、ここ行つて来たら？」

竜生「？」

それは、絵里と御剣の眠るお墓がある霊園だった。

竜生「そうだな。久しぶりに行くか海未。」

海未「ええ。皆さんには連絡しておきますので」

竜生「ああ頼んだ。」

そして、

く霊園く

竜生「はあ、ついた。」

穂乃果「遅いよ。」

海未「もう来てたのですね。」

ことり「うん！休みでよかったよ。」

凜「戻ってきてすぐだったから。」

花陽「でも、みんなも変わらないね。」

にこ「忙しいのに呼び出されるから。」

真姫「だったら来なかつたらいいじゃない。」

にこ「親友のお墓参りに来ない程馬鹿じゃないわよ！」

希「あんまり騒がしいとえりちに怒られるよ？」

竜生「だな。」

黒闇と月影は、忙しくて来れなかつたみたいだ。

俺達は、絵里と御剣の墓に手を合わせてから、

写真を撮った。

いつまでも仲良しで、そしてかけがえのないものだ。

それは、アルファス。お前を含めてな。